

資料編

1. 掲載図表索引

図表 3-1	大学アンケート・ヒアリング結果	3
図表 3-2	企業アンケート・ヒアリング結果	4
図表 4-1	集中講義用カリキュラム	6
図表 6-1	通常講義用モデルカリキュラム（最終版）	8
図表 6-2	集中講義用モデルカリキュラム（最終版）	10
図表 2-1-1	所属について	21
図表 2-1-2	専門分野について	22
図表 2-1-3	業種について	23
図表 2-1-4	社会に出てからの経過年数（学生、院生を除く）	23
図表 2-1-5	知的財産制度に関する教育の有無	24
図表 2-1-6	知的財産制度に関する教育を受けた時期	24
図表 2-1-7	知的財産制度に関する教育を受けた場所	25
図表 2-1-8	知的財産制度に関する教育の内容	25
図表 2-1-9	学生時代の知的財産制度に関する教育の必要性	26
図表 2-1-10	知的財産制度に関する教育の必要レベル	26
図表 2-1-11	現在の研究遂行に必要と認識している事項	27
図表 2-1-12	研究ノートの利用状況	28
図表 2-1-13	業務・活動に際しての特許・実用新案制度との関わり	28
図表 2-1-14	研究成果物（譲渡・管理）の取り扱いについての関わり	29
図表 2-1-15	業務・活動に際しての著作権制度との関わり	29
図表 2-1-16	ノウハウ・営業秘密の取り扱いについての制度 （不正競争防止法等）との関わり	29
図表 2-1-17	業務・活動との関わりの深いと思われる知的財産関連の項目	30
図表 2-1-18	業務・活動と知的財産制度との関わりの場面	31
図表 2-1-19	知的財産制度との関わりが業務・活動に及ぼす影響	32
図表 2-1-20	業務に対して知的財産制度が与える好ましい影響	33
図表 2-1-21	業務に対して知的財産制度が与える好ましくない影響	34
図表 2-1-22	所属先での産学連携活動について	35
図表 2-1-23	産学連携を実施する際の知的財産制度の重要性	35
図表 2-1-24	知的財産権の出願（特許出願など）を行う際に生じている課題	36
図表 2-1-25	大学、公的研究機関の特許権等の契約に関する課題	37
図表 2-1-26	知的財産権を獲得することは研究活動のインセンティブとなるか	37
図表 2-1-27	知的財産権がもたらす研究活動へのインセンティブはどのようなものか	38
図表 2-1-28	理工系学部を学生を対象とした知的財産教育講座の開講の有無	39
図表 2-1-29	理工系学部を対象とした知的財産教育講座の対象学年	39
図表 2-1-30	理工系学部を対象とした知的財産教育講座の対象学年の学部	40
図表 2-1-31	大学アンケート	41
図表 2-1-32	大学ヒアリング	42

図表 2-1-33	大学アンケート（将来就職する学生）	43
図表 2-1-34	大学アンケート（共同研究に参加する学生）	44
図表 2-1-35	大学ヒアリング（将来就職する学生）	45
図表 2-1-36	大学ヒアリング（共同研究に参加する学生）	46
図表 2-1-37	研究者等への知的財産制度に関する社内教育の実施の有無	47
図表 2-1-38	企業アンケート	48
図表 2-1-39	具体的な内容	49
図表 2-1-40	企業ヒアリング	50
図表 2-1-41	具体的な内容	51
図表 2-1-42	企業アンケート（将来就職する学生）	52
図表 2-1-43	企業アンケート（共同研究に参加する学生）	53
図表 2-1-44	企業ヒアリング（将来就職する学生）	54
図表 2-1-45	企業ヒアリング（共同研究に参加する学生）	55
図表 2-1-46	企業と大学のアンケート・ヒアリング結果	56
図表 2-2-1	企業アンケート・ヒアリング結果	58
図表 2-2-2	大学アンケート・ヒアリング結果	61
図表 3-1-1	通常講義用カリキュラム表（第1版）	70
図表 3-1-2	集中講義用カリキュラム表（第1版）	72
図表 3-1-3	集中講義用カリキュラム表（第2版）	75
図表 3-1-4	通常講義用カリキュラム表（第2版）	77
図表 3-2-1	カリキュラム検証実施型	82
図表 3-2-2	大阪大学の場合	82
図表 3-3-1	学部・研究科	83
図表 3-3-2	学年	84
図表 3-3-3	あなたは今までに知的財産に関する勉強をしたことがありますか	84
<1時限>		
図表 3-3-4	講義の難易度につきどう感じられましたか	85
図表 3-3-5	講義用資料の見易さにつき、どう感じられましたか	86
図表 3-3-6	講義用資料の分量につきどう感じられましたか	86
図表 3-3-7	全体として	88
図表 3-3-8	特許の一生	88
図表 3-3-9	特許からみた世界での位置づけ	89
図表 3-3-10	知的財産制度が自分の研究において重要だと思いましたか	89
図表 3-3-11	知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか	90

<2 時限>

図表 3-3-12	講義の難易度につきどう感じられましたか	91
図表 3-3-13	講義用資料の見易さにつきどう感じられましたか	91
図表 3-3-14	講義用資料の分量につきどう感じられましたか	92
図表 3-3-15	全体として	93
図表 3-3-16	研究活動と知的財産	93
図表 3-3-17	秘密情報の管理	94
図表 3-3-18	他人の知的財産の利用	94
図表 3-3-19	知的財産制度が自分の研究において重要だと思いましたか	95
図表 3-3-20	知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか	95

<3 時限>

図表 3-3-21	講義の難易度につきどう感じられましたか	96
図表 3-3-22	講義用資料の見易さにつきどう感じられましたか	96
図表 3-3-23	講義用資料の分量につきどう感じられましたか	97
図表 3-3-24	全体として	98
図表 3-3-25	発明はだれのものか	98
図表 3-3-26	特定技術分野と知的財産	99
図表 3-3-27	共同・受託研究において留意すべきこと	99
図表 3-3-28	知的財産の活用	100
図表 3-3-29	知的財産制度が自分の研究において重要だと思いましたか	100
図表 3-3-30	知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか	101

<4 時限>

図表 3-3-31	講義の難易度につきどう感じられましたか	102
図表 3-3-32	講義用資料の見易さにつきどう感じられましたか	103
図表 3-3-33	講義用資料の分量につきどう感じられましたか	103
図表 3-3-34	全体として	105
図表 3-3-35	その他の知的財産制度	105
図表 3-3-36	その他の知的財産関連制度	106
図表 3-3-37	知的財産制度が自分の研究において重要だと思いましたか	106
図表 3-3-38	知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか	107

図表 4-1-1	通常講義モデルカリキュラム（最終版）	110
図表 4-1-2	集中講義モデルカリキュラム（最終版）	112
図表 4-3-1	知的財産教育のレベルに応じた教育内容の変化（イメージ）	119

2. 掲載図表数値データ

- (1) 研究者・開発者に対するアンケート調査票
- (2) 大学に対するアンケート・ヒアリング調査票
- (3) 企業に対するアンケート・ヒアリング調査票
- (4) 検証講義アンケート調査票
- (5) 研究者・開発者に対するアンケート調査結果
- (6) 大学に対するアンケート・ヒアリング調査結果
- (7) 企業に対するアンケート・ヒアリング調査結果
- (8) 検証講義アンケート調査結果

(1) 研究者・開発者に対するアンケート調査票
理工系のための知的財産教育に関するアンケート

本アンケートは、現在もしくは過去に、お勤め先／在学中の大学・大学院において研究業務を行っている(行っていた)方へのアンケートになります。

【対象は下記のいずれかの方です】

事前登録属性より

ビジネスモニター(属性:研究開発)

過去調査より

理工学部の大学生

それ以外の方には、お答えいただけない内容になっております。

アンケートにご協力いただける方は、予めご了承いただいた上でご回答をお願い致します。

特許庁 平成24年度大学知財研究推進事業

「理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究」に関するアンケート調査ご協力をお願い

大阪大学 知的財産センター

<アンケート調査の趣旨>

大学は、将来イノベーション創出を担う優秀な人材を産業界に輩出する場としても期待されており、産業界からは将来研究者として活躍する理工系学生に対し、研究者として必要となる知的財産に関する基礎知識を在学中から身につけておいて欲しいとの意見も聞かれるところではあります。また、産学連携における共同研究へ学生が参画する機会が増加する中、その学生が研究途中段階で研究内容等を公の場で話してしまう例など、産業界より学生の知的財産に関する知識が十分でないことが指摘されているところです。

以上を背景として、今回の研究では理工系学生向けに研究者として知っておくべき実践的な知的財産の知識を得るための知的財産権制度講座の在り方を検討するとともに実証実験を行い、これをカリキュラムとして提示することを目的としています。

御多忙中、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力の程、お願いいたします。

<御記入にあたって>

本質問調査票は、知的財産教育に係る取組や制度について伺うものです。事実関係を御記入ください。あなたの研究分野における研究者としての個人的な御意見で結構です。

で、ぜひ忌憚ない御意見をお聞かせください。

本調査において「知的財産権」とは特許権、著作権、商標権、意匠権などの法律で定められた権利を指します。「知的財産」とは「知的財産権」に加え、ノウハウや営業秘密、及び権利化できないが価値のある知的成果も含みます。「知的財産制度」とは知的財産とその保護・活用に関連する制度全般を指します。「特許制度」、「著作権制度」は、それらの権利の保護・活用に関連する制度全般を指します。

本調査から得られた情報は集計が行われ分析されますが、本調査の実施に当たっては、個人情報保護法を遵守し、個人情報外部に流出しないよう管理には細心の注意を払い、調査以外の目的にはこれらの情報は使用致しません。

※次のページへ進んでアンケートにご回答ください。

1. 基本情報について

問 1-1

あなたの所属に当てはまるものをお答えください。【必須】【単一】



学部生(学年 年生)



大学院生



大学教員(研究員含)



大学職員



公的研究機関



大企業

(中小企業基本法に基づく定義による。製造業であれば従業員が300人を越えかつ資本金が三億円を超える)



中小企業

(中小企業基本法に基づく定義による。製造業であれば従業員数300人未満又は資本金3億円以下)



その他

問 1-1 で「大学院生」と回答いただいた方にお伺いします。

問 1-1-2

大学院での現在の課程はどちらになりますか。当てはまるものをお答えください。【必須】【単一】

修士課程

博士課程

その他

問 1-1 で、学部生、大学院生、大学教員（研究員含）、大学職員に所属しているとお答えの方に伺います。

問 1-2-1

あなたの分野に当てはまるものをお答えください。（複数回答）【必須】【複数】

工学系分野

薬学分野

情報科学系分野

医学・生物学系分野

実験系が中心の分野

実証研究が中心分野

理論研究が中心分野

実用志向の分野

融合学際領域の学術分野

その他

問 1-1 で、公的研究機関、大企業、中小企業に所属しているとお答えの方に伺います。

問 1-2-2

あなたの業種に当てはまるものをお答えください。(複数回答)【必須】【複数】

- 電機
- 機械
- 化学
- 製薬
- 情報通信
- 食品・飲料
- その他

問 1-3

社会に出て何年が経過していますか。【必須】【単一】

(社会人学生の方も以下の選択肢よりお選びください)

- 1～3 年
- 4～6 年
- 7～9 年
- 10 年以上

問 1-4

あなたは今までに知的財産制度に関する教育を受けたことがありますか。【必須】【単一】

- ある
- ない

問 1-4 で、知的財産制度に関する教育を「受けたことがある」とお答えの方に伺います。

問 1-5

最初に知的財産制度に関する教育を受けたのは、どのタイミングですか。【必須】【単一】

- 大学 年次
- 大学院 年次
- 入社(勤務)1年目
- 入社(勤務)2～5年目
- 入社(勤務)6年目以上

問 1-6

どこで受けましたか。【必須】【単一】

- 大学
- 社内(学内)教育
- 外部セミナー
- その他

問 1-7

具体的にどのようなものですか。(複数回答可)【必須】【複数】

- 知的財産制度概論(特許法、実用新案法、意匠法、商標法の制度全般)
- 特許制度入門(特許制度概要など基礎的な内容)
- 特許制度実践(領域や事例に特化した実践的な内容)
- 意匠制度
- 商標制度
- 著作権制度
- 不正競争防止法
- その他

問 1-8

学生時代に知的財産教育は行ったほうがいいと思いますか。【必須】【単一】

- 思う
- 思わない

(理由)

問 1-8 で、知的財産教育は「行ったほうがいい」とお答えの方に伺います。

問 1-9

どのようなレベルが必要だと考えますか。【必須】【単一】

- 知的財産制度概論レベル(特許法、実用新案法、意匠法、商標法の制度全般)
- 特許制度入門レベル(特許制度概要など基礎的な内容)
- 特許制度実践レベル(法律系ではなく、領域や事例に特化した実践的な内容)
- その他

問 1-10

現在の研究遂行に必要と認識しているものをお選びください。(複数回答)【必須】【複数】

※現在は必要としていなくても、今後必要になる場合はそちらについてお答えください。


- 特許要件(どのような発明が特許を受けることができるのか)
- 研究ノートの知的財産制度の側面からの重要性について(発明者の認定や各人の貢献度を決定する上での根拠とされることなど)
- 先行技術調査の意義とその必要性・重要性
- 共同・委託・受託研究の際の契約上の注意点や問題点についての知識
- 秘密情報(研究開発に関する情報、営業秘密など)の取り扱い
- 安全保障貿易管理に関する知識
- 特許出願と論文発表や学会発表の時期との関係について
- 職務発明とその権利帰属について
- 特許権の利用に関する知識(他人の権利との関係)
- 著作権法の留意点(著作権法に関して、職務著作、他人の論文や著作物の引用の可否など)
- 必要と認識しているものはない

問 1-11

現在、研究ノート(ラボノート)を記していますか。(複数回答)【必須】【複数】

- 紙媒体で記している
- 所属先のシステムなどを利用し、記録している(電子ラボノート)
- 記していない

(理由)



◎以降の質問における「業務・活動」については、企業などに属する方は研究開発業務、大学に属する方は教育研究活動をさすものとします。

2. 関わりがある知的財産の種類

問 2-1

あなたの業務・活動に際して、特許・実用新案制度との関わりはどの程度ありますか。【必須】【単一】

- 関わりが深い
- 関わりがある
- 関わりが少しある
- 関わりはない

問 2-2

あなたの業務・活動に際して、研究成果物の取扱い(譲渡・管理)についての関わりはどの程度ありますか。【必須】【単一】

- 関わりが深い
- 関わりがある
- 関わりが少しある
- 関わりはない

問 2-3

あなたの業務・活動に際して、著作権制度との関わりはどの程度ありますか。【必須】【単一】

- 関わりが深い
- 関わりがある
- 関わりが少しある
- 関わりはない

問 2-4

あなたの業務・活動に際して、ノウハウ・営業秘密の取扱いにかかわる制度（不正競争防止法等）との関わりはどの程度ありますか。【必須】【単一】

- 関わりが深い
- 関わりがある
- 関わりが少しある
- 関わりはない

問 2-5

あなたの業務・活動と関わりの深いと思われる知的財産関連の項目を選択してください。（複数回答）【必須】【複数】

- 商標制度
- 意匠制度
- 種苗法
(植物新品種の保護にかかわる制度)
- 輸出入管理規制、安全保障管理にかかわる制度
- 独占禁止法
- 外国の知的財産制度
- TRIPS 協定
- 生物多様性条約
(遺伝資源へのアクセスとベネフィットシェアリングにかかわる制度)
- 事実データを収集したデータベースの法的保護
(欧州において EU 指令で定められている制度)
- その他の国際条約
- その他

3. 知的財産制度全般との関与:あなたの業務・活動と知的財産制度との関わりについて伺います。

問 3-1

あなたの業務・活動と知的財産制度との関わりは主に下記のいずれの場面で生じていると考えられますか。(複数回答)【必須】【複数】

- 教育
- 研究開発
- 産官学連携
- 研究成果公開
- 学術論文誌、学会などでの発表
- 外国との交流
- その他

問 3-2

知的財産制度との関わりが、あなたの業務・活動に及ぼす影響について該当するものを1つお選びください。【必須】【単一】

- 研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などに大いにプラスの影響がある
- 研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などにある程度プラスの影響がある
- 研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などに対する影響はどちらともいえない
- 研究開発・教育活動を阻害する影響がある程度はある
- 研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などを阻害する影響が大きい

問 3-3

あなたの業務・活動に対して、知的財産権制度が与える好ましい影響をお選びください。(複数回答)【必須】【複数】

- 研究成果の社会還元役に役立つ
- 知識の保護と活用に関する公正なルールの徹底に役立つ
- 研究活動に必要な権利取得が可能となる
- 研究が促進される
- 産学連携に役立つ
- 海外との連携に役立つ
- 研究成果の公開に役立つ
- 研究成果を知的財産とすることで科学技術への国税の投入に対する説明責任が果たせる

(例: NEDO、JST などの技術開発支援プログラムなど)

- 知的財産を介して学会や研究機関の研究費が獲得しやすくなる
- 知的財産を介して研究者が報酬を得やすくなる
- その他

問 3-4

あなたの業務・活動に対して、知的財産権制度が与える好ましくない影響をお選びください。(複数回答)【必須】【複数】

- 研究成果の社会還元を制約する
- 権利意識が高まりすぎて自由な学術研究活動ができなくなる
- 外国の研究機関や外国人との学術交流に支障が生じる
- 研究方法の権利の存在によって研究活動が阻害される
- 学生の研究への参加に支障が生じる
- 研究成果の公開が遅れることがある
- 秘密主義になりやすく研究発表などの支障が生じる
- 利益相反の問題に結び付きやすい
- 知的財産権を獲得することが目的化して研究の方向性が歪められる
- 学生への教育が知的財産制度を介した商業主義で歪められる
- 発明者の認定などでトラブルを生じる
- 知的財産制度が発展途上国に不利益を与える
(エイズ薬特許問題など)
- その他

4. 産学連携と特許等：産学連携とこれに関する特許等について伺います。

問 4-1

あなたの所属先での産学連携活動は盛んでしょうか。【必須】【単一】

- 極めて盛んである
- かなり盛んである
- ある程度は行われている
- あまり行われていない
- ほとんど行われていない

問 4-1 で、所属先での産学連携活動が「極めて盛ん」「かなり盛ん」「ある程度は行われている」とお答えの方に伺います。

問 4-2

産学連携を実施する際に知的財産制度はどの程度重要と思われますか。【必須】【単一】

- 極めて重要である
- かなり重要である
- どちらともいえない
- あまり重要でない
- 全く重要ではない

問 4-3

産学連携を実施する際の知的財産に関する知識について、企業が期待するレベルと大学、公的研究機関の対応のレベルに差異があると思われますか。【必須】【単一】

- 企業のレベルのほうが大学、公的研究機関より高い
- 大学、公的研究機関のレベルのほうが企業より高い
- どちらともいえない

引き続き、問 4-1 で、所属先での産学連携活動が「極めて盛ん」「かなり盛ん」「ある程度は行われている」とお答えの方に伺います。

問 4-4

あなたの所属先における産学連携について、大学、公的研究機関の研究者等が知的財産権の出願（特許出願など）を行う際に生じている課題を選択してください。（複数回答）【必須】【複数】

- 発明者（創作者）の認定や寄与率の決定が困難
- 発明者（創作者）に対する知的財産権の譲渡対価の手当てが困難
- 研究成果の論文・学会発表との兼ね合いを調整するのが困難
- 知的財産権の獲得を目指して特許出願等を行う価値があるほどの発明（創作）であるのかどうかの評価が難しい
- 学生が発明者（創作者）に含まれる研究成果の取扱いが困難
- 知的財産権の出願に際して専門家の支援が不足
- 大学、公的研究機関の知的財産部門の機能が不足
- 大学、公的研究機関の組織の知的財産権の出願経費の手当てが困難
- 大学、公的研究機関の事情に合致した知的財産管理の不在
- その他

問 4-5

産学連携に関係して、大学、公的研究機関の特許権等の契約に関して課題と考えることを選択してください。（複数回答）【必須】【複数】

- 共同研究の際の知的財産の帰属に関する契約が困難
- 多くの大学や法人が関与するプログラム（プロジェクト）における知的財産の帰属に関する契約が困難
- 国際的な協力における知的財産に関する契約が困難
- マテリアルトランスファーを伴う契約や制度運用が困難
- プログラム著作権に関する取り決めや契約が困難
- ノウハウなど秘密情報の管理に関する契約が困難
- その他

5. あなたの学術分野における、知的財産制度と研究活動のインセンティブとの関係について伺います。

問 5-1

あなたの分野に関わりを持つ知的財産権を獲得することは、あなたの研究活動のインセンティブとなると思われますか。【必須】【単一】

- 大いにインセンティブにつながっている
- どちらかといえばインセンティブにつながっている
- あまりインセンティブにはならない
- 全くインセンティブにはならない
- その他

問 5-1 で、「大いにインセンティブにつながっている」「どちらかといえばインセンティブにつながっている」とお答えの方に伺います。

問 5-2

知的財産権がもたらす研究活動へのインセンティブはどのようなものですか。(複数回答)【必須】【複数】

- 個人への金銭的報酬(特許の発明報奨など)がある
- 業績として評価される
- 名声や評判につながる
- 発明者、創作者の名誉が守られる
- 研究資金や開発予算の獲得につながる
- 所属機関に貢献する
- 産業界・社会への貢献
- その他

(2)大学に対するアンケート・ヒアリング調査票

特許庁 平成24年度大学知財研究推進事業

「理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究」に関するアンケート調査
ご協力をお願い

大阪大学 知的財産センター

<アンケートの趣旨>

大学は、将来イノベーション創出を担う優秀な人材を産業界に輩出する場としても期待されており、産業界からは将来研究者として活躍する理工系学生に対し、研究者として必要となる知的財産に関する基礎知識を在学中から身につけておいて欲しいとの意見も聞かれるところです。また、産学連携における共同研究へ学生が参画する機会が増加する中、その学生が研究途中段階で研究内容等を公の場で話してしまう例など、産業界より学生の知的財産に関する知識が十分でないことが指摘されているところです。

以上を背景として、今回の研究では理工系学生向けに研究者として知っておくべき実践的な知的財産の知識を得るための知的財産権制度講座の在り方を検討するとともに実証実験を行い、これをカリキュラムとして提示することを目的としています。

今回の調査は、上記の観点から、主に以下の点をお伺いいたしたく、アンケートを実施させていただければと考えております。

1. 産学連携などで、大学と企業とで共同研究を行うにあたり、参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
2. 将来、研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
3. 貴大学において、研究者・開発者・技術者となる学生に対して、教育している、または教育すべきと考えられる知的財産に関する知識とはどのようなものか。

【アンケート調査結果について】

ご回答いただいた内容は、本調査研究におけるカリキュラムの検討において活用させていただきます。

また、アンケート結果につきましては、本研究の報告書において、大学名を伏せた上で統計的にとりまとめて公表いたします。

上記目的以外には、調査結果は一切使用いたしませんし、個別情報を公表するなどは致しません。

特許庁 平成24年度大学知財研究推進事業

「理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究」に関するヒアリング調査
ご協力をお願い

大阪大学 知的財産センター

<ヒアリングの趣旨>

大学は、将来イノベーション創出を担う優秀な人材を産業界に輩出する場としても期待されており、産業界からは将来研究者として活躍する理工系学生に対し、研究者として必要となる知的財産に関する基礎知識を在学中から身につけておいて欲しいとの意見も聞かれるところです。また、産学連携における共同研究へ学生が参画する機会が増加する中、その学生が研究途中段階で研究内容等を公の場で話してしまう例など、産業界より学生の知的財産に関する知識が十分でないことが指摘されているところです。

以上を背景として、今回の研究では理工系学生向けに研究者として知っておくべき実践的な知的財産の知識を得るための知的財産権制度講座の在り方を検討するとともに実証実験を行い、これをカリキュラムとして提示することを目的としています。

今回の調査は、上記の観点から、主に以下の点をお伺いいたしたく、ヒアリングを実施させていただければと考えております。

1. 産学連携などで、大学と企業とで共同研究を行うにあたり、参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
2. 将来、研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
3. 貴大学において、研究者・開発者・技術者となる学生に対して、教育している、または教育すべきと考えられる知的財産に関する知識とはどのようなものか。

【ヒアリング調査結果について】

ご回答いただいた内容は、本調査研究におけるカリキュラムの検討において活用させていただきます。

また、ヒアリング結果につきましては、本研究の報告書において、大学名を伏せた上で統計的にとりまとめて公表いたします。

上記目的以外には、調査結果は一切使用いたしませんし、個別情報を公表するなどは致しません。

【問い合わせ先】

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1丁目6番地

大阪大学知的財産センター内

Tel : 06-6850-5007 Fax : 06-6850-6593

Mail : ipjim@iprism.osaka-u.ac.jp

http://www.iprism.osaka-u.ac.jp

貴大学名	
お名前	
所属部署名	
役職	
住所	
電話番号	
メールアドレス	

<ご回答いただく方のお立場>

1. 産学連携推進担当教職員
2. 専門職大学院大学教職員（知的財産関連）
3. 法学部・法学研究科教職員
4. 理工系学部教職員
5. その他（ ）

<理工系学生に対する知的財産教育講座の現状について>

Q1-1. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座を開講していますか？

A1. 開講している 開講していない（Q1-8へ）

Q1-2. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学年

--

Q1-2-1 なぜ、その学年を対象としているのですか？

--

Q1-2-2 その他の学年を対象とする計画等がありますか？

--

Q 1 - 3 . 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学生の学部

--

Q 1 - 3 - 1 なぜその学部を対象としているのですか？

--

Q 1 - 3 - 2 複数の学部を対象としている場合に、学部によって講座の内容はどのようにしていますか？

--

Q 1 - 3 - 3 その他の学部を対象とする計画等がありますか？

--

Q 1 - 4 . 貴大学における理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の具体的な内容はどのようなものですか？

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

(1) 知的財産制度全般の概要 (目的・種類・保護対象など基礎的な内容)

(2) 特許制度についての

①入門編 (目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容)

②初級編 (入門編の内容に加え、出願手続の具体的内容、発明とは、特許権者、特許要件の具体的内容などの内容)

③中・上級編 (初級編の内容に加え、領域や事例に特化した新規性喪失の例外、職務発明、権利侵害、新規性・進歩性の判断手法、権利侵害の判断手法、など、実際の判断方法が理解できる内容)

(3) 意匠制度についての

①入門編 (目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容)

②初級編 (入門編の内容に加え、出願手続の具体的内容、意匠とは、意匠権者、意匠の登録要件の具体的内容などの内容)

③中・上級編 (初級編の内容に加え、領域や事例に特化した新規性喪失の例外、職務意匠、権利侵害、新規性・類似、創作容易性の判断手法、権利侵害の判断手法、など、実際の判断方法が理解できる内容)

(3) 商標制度について

- ①入門編（目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容）
- ②初級編（入門編の内容に加え、出願手続の具体的内容、商標の種類、商標の三大機能、商標権者、商標の登録要件の具体的内容などの内容）
- ③中・上級編（初級編の内容に加え、権利侵害、商標の類否判断の判断手法、権利侵害の判断手法など、実際の判断方法が理解できる内容）

(4) 著作権について

(5) その他知的財産権制度について

例：不競法など

Q 1 - 5 現在の講座についての課題及び留意点とその解決策はどうですか？

Q 1 - 6 知的財産権制度講座の開講に当たって教員の充足度についてはどうですか？

Q 1 - 7 知的財産権制度講座を担当する教員が必要とする資質や経験についてはどう思われますか？

Q 1 - 8 知的財産権制度講座を開講していない場合、その理由と今後の方策について

(3)企業に対するアンケート・ヒアリング調査票

特許庁 平成24年度大学知財研究推進事業

「理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究」に関するアンケート調査
ご協力をお願い

大阪大学 知的財産センター

<アンケートの趣旨>

大学は、将来イノベーション創出を担う優秀な人材を産業界に輩出する場としても期待されており、産業界からは将来研究者として活躍する理工系学生に対し、研究者として必要となる知的財産に関する基礎知識を在学中から身につけておいて欲しいとの意見も聞かれるところです。また、産学連携における共同研究へ学生が参画する機会が増加する中、その学生が研究途中段階で研究内容等を公の場で話してしまう例など、産業界より学生の知的財産に関する知識が十分でないことが指摘されているところです。

以上を背景として、今回の研究では理工系学生向けに研究者として知っておくべき実践的な知的財産の知識を得るための知的財産権制度講座の在り方を検討するとともに実証実験を行い、これをカリキュラムとして提示することを目的としています。

今回の調査は、上記の観点から、主に以下の点をお伺いいたしたく、アンケートを実施させていただければと考えております。

1. 産学連携などで、大学と企業とで共同研究を行うにあたり、参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
2. 将来、研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
3. 御社において、研究者・開発者・技術者に対して、教育している、または教育すべきと考えられる知的財産に関する知識とはどのようなものか。

【アンケート調査結果について】

ご回答いただいた内容は、本調査研究におけるカリキュラムの検討において活用させていただきます。

また、アンケート結果につきましては、本研究の報告書において、企業名を伏せた上で統計的にとりまとめて公表いたします。

上記目的以外には、調査結果は一切使用いたしませんし、個別情報を公表するなどは致しません。

特許庁 平成24年度大学知財研究推進事業

「理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究」に関するヒアリング調査
ご協力をお願い

大阪大学 知的財産センター

<ヒアリングの趣旨>

大学は、将来イノベーション創出を担う優秀な人材を産業界に輩出する場としても期待されており、産業界からは将来研究者として活躍する理工系学生に対し、研究者として必要となる知的財産に関する基礎知識を在学中から身につけておいて欲しいとの意見も聞かれるところです。また、産学連携における共同研究へ学生が参画する機会が増加する中、その学生が研究途中段階で研究内容等を公の場で話してしまう例など、産業界より学生の知的財産に関する知識が十分でないことが指摘されているところです。

以上を背景として、今回の研究では理工系学生向けに研究者として知っておくべき実践的な知的財産の知識を得るための知的財産権制度講座の在り方を検討するとともに実証実験を行い、これをカリキュラムとして提示することを目的としています。

今回の調査は、上記の観点から、主に以下の点をお伺いいたしたく、ヒアリングを実施させていただければと考えております。

1. 産学連携などで、大学と企業とで共同研究を行うにあたり、参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
2. 将来、研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識とはどのようなものか。
3. 御社において、研究者・開発者・技術者に対して、教育している、または教育すべきと考えられる知的財産に関する知識とはどのようなものか。

【ヒアリング調査結果について】

ご回答いただいた内容は、本調査研究におけるカリキュラムの検討において活用させていただきます。

また、ヒアリング結果につきましては、本研究の報告書において、企業名を伏せた上で統計的にとりまとめて公表いたします。

上記目的以外には、調査結果は一切使用いたしませんし、個別情報を公表するなどは致しません。

Q 1 - 3. 御社で入社後数年程度の研究者・開発者・技術者に対して実施している知的財産権制度に関する社内教育の具体的な内容はどのようなものですか？

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

(1) 知的財産制度全般の概要 (目的・種類・保護対象など基礎的な内容)

(2) 特許制度についての

①入門編 (目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容)

②初級編 (入門編の内容に加え、出願手続の具体的な内容、発明とは、特許権者、特許要件の具体的な内容などの内容)

③中・上級編 (初級編の内容に加え、領域や事例に特化した新規性喪失の例外、職務発明、権利侵害、新規性・進歩性の判断手法、権利侵害の判断手法、など、実際の判断方法が理解できる内容)

(3) 意匠制度についての

①入門編 (目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容)

②初級編 (入門編の内容に加え、出願手続の具体的な内容、意匠とは、意匠権者、意匠の登録要件の具体的な内容などの内容)

③中・上級編 (初級編の内容に加え、領域や事例に特化した新規性喪失の例外、職務意匠、権利侵害、新規性・類似、創作容易性の判断手法、権利侵害の判断手法、など、実際の判断方法が理解できる内容)

(3) 商標制度について

①入門編 (目的・権利期間・保護対象・出願手続の概要など基礎的な内容)

②初級編 (入門編の内容に加え、出願手続の具体的な内容、商標の種類、商標の三大機能、商標権者、商標の登録要件の具体的な内容などの内容)

③中・上級編 (初級編の内容に加え、権利侵害、商標の類否判断の判断手法、権利侵害の判断手法など、実際の判断方法が理解できる内容)

(4) 著作権について

--

(5) その他知的財産権制度について

例：不競法など

--

Q 1 - 4 知的財産教育における大学の役割として期待することは何ですか？

--

Q2-14. ネットワーク社会における知的財産法に関する留意点一般について

※最近、ネットワーク上でのコミュニケーション手段が発達してきており、仲間内での発言の感覚でtwitter上に研究に関する話題を書き込んだり、クラウドサービスの文書蓄積等の利用が日常的になっていることから、それらに研究内容や秘密情報を書き込むことの危険性を理解させることは、重要であると考えられる。

- ・ 将来企業に入社する学生 必須 知っていれば望ましい 必要性を感じない
(そのように考える理由: _____)

- ・ 共同研究に参加する学生 必須 知っていれば望ましい 必要性を感じない
(そのように考える理由: _____)

ネットワークに関する知的財産法に関する事例で参考となる事例がありましたらご教示ください。

Q2-15. その他必要と考えられる知的財産に関する知識や学生に足りない知識はどのようなものがあるかについてお答えください。

- ・ 特許に関するもの

- ・ 意匠に関するもの

- ・ 商標に関するもの

特許から見た世界での日本の位置づけ

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

[4]全体的に

Q9 講師の講義態様は分かりやすかったですか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

○その他授業に対する意見や感想（良い点、悪い点等）、希望などがあれば書いてください。

秘密情報の管理

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

③ 他人の知的財産の利用

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

[4]全体的に

Q9 講師の講義態様は分かりやすかったですか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

○その他授業に対する意見や感想（良い点、悪い点等）、希望などがあれば書いてください。

特定技術分野と知財

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

② 共同・受託研究において留意すべきこと

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

③ 知的財産の活用

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

(理由：)

[4]全体的に

Q9 講師の講義態様は分かりやすかったですか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

○その他授業に対する意見や感想（良い点、悪い点等）、希望などがあれば書いてください。

[4]全体的に

Q9 講師の講義態様は分かりやすかったですか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. 思わない)

○その他授業に対する意見や感想（良い点、悪い点等）、希望などがあれば書いてください。

検証講義 アンケート (教員用)

授業科目名		授業担当教員	
-------	--	--------	--

[1]講義資料について

Q1 講義資料の難易度につきどう感じられましたか。

(簡単すぎる やや簡単 適切 やや難しい 難しすぎる)

→簡単、あるいは難しいと感じられた場合、それは何が理由と思われますか。

()

Q2 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

(見易い やや見易い 普通 やや見難い 見難い)

Q3 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

(少なすぎる やや少ない 適切 やや多い 多すぎる)

Q4 事例集の有用性については如何でしたか。

(便利 やや便利 普通 やや不便 不便)

[2]全体的に

Q5 全体的に、講義資料は使いやすかったですか

(使いやすい やや使いやすい 普通 やや使いにくい 使いにくい)

その他講義内容又は資料につき、ご意見や感想(良い点、悪い点、修正点)等について、
ご記載願います。

(5) 研究者・開発者に対するアンケート調査結果

研究者・開発者に対するアンケート結果

Q1-1. あなたの所属に当てはまるものをお答えください。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
学部生 (学年)	1	-	0.5
大学院生 (学年)	35	-	16.4
大学教員 (研究員含)	44	-	20.7
大学職員	8	-	3.8
公的研究機関	11	-	5.2
大企業	71	-	33.3
中小企業	34	-	16.0
その他	9	-	4.2
合計	213		100.0

Q1-1-2. Q1-1 で「②大学院生」と回答された方にお聞きします。

大学院での現在の過程はどちらになりますか。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
修士課程 (学年)	25	-	71.4
博士課程 (学年)	10	-	28.6
その他	0	-	0
合計	65		100.0

Q1-2-1. Q1-1 で「①学部生～④大学職員」と回答された方にお聞きします。

あなたの分野に当てはまるものはどれですか。【複数選択可】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
工学系分野	39	-	44.3
薬学分野	3	-	3.4
情報科学系分野	6	-	6.8
医学・生物学系分野	24	-	27.3
実験系が中心の分野	28	-	31.8
実証研究が中心分野	7	-	8.0
理論研究が中心分野	7	-	8.0
実用思考の分野	10	-	11.4
融合学際領域の学術分野	6	-	6.8
その他	2	-	2.3
合計	65		100.0

Q1-2-2. Q1-1 で「⑤公的研究機関～⑦中小企業」と回答された方にお聞きします。

あなたの業種に当てはまるものはどれですか。【複数選択可】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
電機	34	-	29.3
機械	27	-	23.3
化学	12	-	10.3
製薬	6	-	5.2
情報通信	13	-	11.2
食品・飲料	5	-	4.3
その他	26	-	22.4
合計	116		100.0

Q1-3. 社会に出て何年が経過していますか。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
1～3年	4	-	2.3
4～6年	9	-	5.1
7～9年	14	-	7.9
10年以上	150	-	84.7
合計	177		100.0

Q1-4. あなたは今までに知的財産制度に関する教育を受けたことがありますか。

【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
ある	128	-	60.1
ない	85	-	39.9
合計	213		100.0

Q1-5. Q1-4 で教育を「受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

最初に知的財産制度に関する教育を受けたのは、どのタイミングですか。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
大学 年次	10	-	7.8
大学院 年次	12	-	9.4
入社（勤務）1年目	29	-	22.7
入社（勤務）2～5年目	34	-	26.6
入社（勤務）6年目以上	43	-	33.6
合計	128		100.0

Q1-6. Q1-4 で教育を「受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

どこで受けましたか。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
大学	33	-	25.8
社内（学内）教育	86	-	67.2
外部セミナー	7	-	5.5
その他	2	-	1.6
合計	128		100.0

Q1-7. Q1-4 で教育を「受けたことがある」と回答された方にお聞きします。

具体的にどのようなものですか。【複数選択可】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
知的財産制度概論（特許法、実用新案法、意匠法、 商標法の制度全般）	99	-	77.3
特許制度入門 （特許制度概要など基礎的な内容）	93	-	72.7
特許制度実践 （領域や事例に特化した実践的な内容）	37	-	28.9
意匠制度	21	-	16.4
商標制度	22	-	17.2
著作権制度	31	-	24.2
不正競争防止法	18	-	14.1
その他	2	-	1.6
合計	116		100.0

Q1-8. 学生時代に知的財産教育は行ったほうが良いと思いますか。【択一】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
思う	196	-	92.0
思わない	17	-	8.0
合計	213		100.0

Q1-9. Q1-8 で知的財産教育は「行ったほうが良い」と回答された方にお聞きします。

どのようなレベルが必要だと考えますか。【択一】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
知的財産制度概論レベル（特許法、実用新案法、 意匠法、商標法の制度全般）	77	-	39.3
特許制度入門レベル （特許制度概要など基礎的な内容）	83	-	42.3
特許制度実践レベル（法律系ではなく、領域や事 例に特化した実践的な内容）	33	-	16.8
その他	3	-	1.5
合計	128		100.0

Q1-10. 現在の研究遂行に必要と認識しているものをお選びください。【複数選択可】

	除く無回答		
	n	(%)	全体 (%)
特許要件（どのような発明が特許を受けることができるのか）	137	-	64.3
研究ノートの知的財産制度の側面からの重要性について （発明者の認定や各人の貢献度を決定する上での根拠とされることなど）	89	-	41.8
先行技術調査の意義とその必要性・重要性	105	-	49.3
共同・委託・受託研究の際の契約上の注意点や問題点についての知識	88	-	41.3
秘密情報（研究開発に関する情報、営業秘密など）の取り扱い	107	-	50.2
安全保障貿易管理に関する知識	32	-	15.0
特許出願と論文発表や学会発表の時期との関係について	82	-	38.5
職務発明とその権利帰属について	75	-	35.2
特許権の利用に関する知識（他人の権利との関係）	62	-	29.1
著作権法の留意点 （著作権法に関して、職務著作、他人の論文や著作物の引用の可否など）	59	-	27.7
必要と認識しているものはない	17	-	8.0
合計	213		100.0

Q1-11. 現在、研究ノート（ラボノート）を記していますか。【複数選択可】

	除く無回答		
	n	(%)	全体 (%)
紙媒体で記している	139	-	65.3
所属先のシステムなどを利用し、記録している（電子ラボノート）	54	-	25.4
記していない	32	-	15.0
合計	213		100.0

◎以降の質問における「業務・活動」については、企業などに属する方は
研究開発業務、大学に属する方は教育研究活動をさすものとしします。

Q2-1. あなたの業務・活動に際して、特許・実用新案制度との関わりは
どの程度ありますか。【択一】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
関わりが深い	31	-	14.6
関わりがある	50	-	23.5
関わりが少しある	80	-	37.6
関わりはない	52	-	24.4
合計	213		100.0

Q2-2. あなたの業務・活動に際して、研究成果物の取扱い（譲渡・管理）についての
関わりはどの程度ありますか。【択一】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
関わりが深い	24	-	11.3
関わりがある	46	-	21.6
関わりが少しある	85	-	39.9
関わりはない	58	-	27.2
合計	213		100.0

Q2-3. あなたの業務・活動に際して、著作権制度についての
関わりはどの程度ありますか。【択一】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
関わりが深い	18	-	8.5
関わりがある	39	-	18.3
関わりが少しある	79	-	37.1
関わりはない	77	-	36.2
合計	213		100.0

Q2-4. あなたの業務・活動に際して、ノウハウ・営業秘密の取扱いにかかわる制度
 (不正競争防止法等) との関わりはどの程度ありますか。【択一】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
関わりが深い	16.	-	7.5
関わりがある	46	-	21.6
関わりが少しある	74	-	34.7
関わりはない	77	-	36.2
合計	213		100.0

Q2-5. あなたの業務・活動と関わりの深いと思われる知的財産関連の項目を
 選択してください。【複数選択可】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
商標制度	67	-	31.5
意匠制度	55	-	25.8
種苗法 (植物新品種の保護にかかわる制度)	8	-	3.8
輸出入管理規制、安全保障管理にかかわる制度	48	-	22.5
独占禁止法	12	-	5.6
外国の知的財産制度	70	-	32.9
TRIPS 協定	3	-	1.4
生物多様性条約 (遺伝資源へのアクセスとベネフィットシェア リングにかかわる制度)	32	-	15.0
事実データを収集したデータベースの法的保護 (欧州においてEU指令で定められている制度)	31	-	14.6
その他の国際条約	3	-	1.4
その他	12	-	5.6
合計	213		100.0

Q3-1. あなたの業務・活動と知的財産制度との関わりは主に下記のいずれの場面で生じていると考えられますか。【複数選択可】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
教育	41	-	19.2
研究開発	167	-	78.4
産官学連携	45	-	21.1
研究成果公開	86	-	40.4
学術論文誌、学会などでの発表	78	-	36.6
外国との交流	17	-	8.0
その他	2	-	0.9
合計	213		100.0

Q3-2. 知的財産制度との関わりが、あなたの業務・活動に及ぼす影響について該当するものを1つお選びください。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などに大いにプラスの影響がある	30	-	14.1
研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などにある程度プラスの影響がある	73	-	34.3
研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などに対する影響はどちらともいえない	84	-	39.4
研究開発・教育活動を阻害する影響がある程度はある	19	-	8.9
研究開発・技術開発・学術研究・教育活動などを阻害する影響が大きい	7	-	3.3
合計	213		100.0

◎Q2-1～4で「④関わりがない」と回答された方はQ4に進んでください。

Q3-3. あなたの業務・活動に対して、知的財産制度が与える好ましい影響をお選びください。【複数選択可】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
研究成果の社会還元に役立つ	69	-	37.3
知識の保護と活用に関する公正なルールの徹底に役立つ	73	-	39.5
研究活動に必要な権利取得が可能となる	74	-	40.0
研究が促進される	61	-	33.0
産学連携に役立つ	46	-	24.9
海外との連携に役立つ	19	-	10.3
研究成果の公開に役立つ	29	-	15.7
研究成果を知的財産とすることで、科学技術への国税の投入に対する説明責任が果たせる（NEDO、JSTなどの技術開発支援プログラムなど）	19	-	10.3
知的財産を介して学会や研究機関の研究費が獲得しやすくなる	24	-	13.0
知的財産を介して研究者が報酬を得やすくなる	34	-	18.4
その他	4	-	2.2
合計	185		100.0

Q3-4. あなたの業務・活動に対して、知的財産制度が与える好ましくない影響をお選びください。【複数選択可】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
研究成果の社会還元を制約する	25	-	13.5
権利意識が高まりすぎて自由な学術研究活動ができなくなる	53	-	28.6
外国の研究機関や外国人との学術交流に支障が生じる	10	-	5.4
研究方法の権利の存在によって研究活動が阻害される	19	-	10.3
学生の研究への参加に支障が生じる	20	-	10.8
研究成果の公開が遅れることがある	48	-	25.9
秘密主義になりやすく研究発表などの支障が生じる	71	-	38.4
利益相反の問題に結び付きやすい	38	-	20.5
知的財産権を獲得することが目的化して研究の方向性が歪められる	31	-	16.8
学生への教育が知的財産制度を介した商業主義で歪められる	24	-	13.0
発明者の認定などでトラブルを生じる	28	-	15.1
知的財産制度が発展途上国に不利益を与える（エイズ薬特許問題など）	13	-	7.0
その他	5	-	2.7
合計	185		100.0

Q4-1. あなたの所属先での産学連携活動は盛んでしょうか。【択一】

	除く無回答		全体 (%)
	n	(%)	
極めて盛んである	6	-	2.8
かなり盛んである	37	-	17.4
ある程度は行われている	92	-	43.2
あまり行われていない	42	-	19.7
ほとんど行われていない	36	-	16.9
合計	213		100.0

Q4-2. 所属先での産学連携活動が「①極めて盛ん～③ある程度は行われている」と回答された方にお聞きします。

産学連携を実施する際に知的財産制度はどの程度重要と思われますか。【択一】

	n	(%)	全体 (%)
極めて重要である	19	-	14.1
かなり重要である	77	-	57.0
どちらともいえない	38	-	28.1
あまり重要でない	1	-	0.7
全く重要ではない	0	-	0.0
合計	135		100.0

Q4-3. 産学連携を実施する際の知的財産に関する知識について、企業が期待するレベルと大学、公的研究機関の対応のレベルに差異があると思われますか。

【択一】

	n	(%)	全体 (%)
企業のレベルのほうが大学、公的研究機関より高い	80	-	59.3
大学、公的研究機関のレベルのほうが企業より高い	19	-	14.1
どちらともいえない	36	-	26.7
合計	135		100.0

Q4-4. あなたの所属先における産学連携について、大学、公的研究機関の研究者等が知的財産権の出願（特許出願など）を行う際に生じている課題を選択してください。【複数選択可】

	除く無回答		
	n	(%)	全体(%)
発明者（創作者）の認定や寄与率の決定が困難	42	-	31.1
発明者（創作者）に対する知的財産権の譲渡対価の手当てが困難	37	-	27.4
研究成果の論文・学会発表との兼ね合いを調整するのが困難	52	-	38.5
知的財産権の獲得を目指して特許出願等を行う価値があるほどの発明（創作）であるのかどうかの評価が難しい	40	-	29.6
学生が発明者（創作者）に含まれる研究成果の取扱いが困難	28	-	20.7
知的財産権の出願に際して専門家の支援が不足	22	-	16.3
大学、公的研究機関の知的財産部門の機能が不足	26	-	19.3
大学、公的研究機関の組織の知的財産権の出願経費の手当てが困難	24	-	17.8
大学、公的研究機関の事情に合致した知的財産管理の不在	11	-	8.1
その他	3	-	2.2
合計	135		100.0

Q4-5. 産学連携に関係して、大学、公的研究機関の特許権等の契約に関して課題と考えることを選択してください。【複数選択可】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
共同研究の際の知的財産の帰属に関する契約が困難	71	-	52.6
多くの大学や法人が関与するプログラム（プロジェクト）における知的財産の帰属に関する契約が困難	48	-	35.6
国際的な協力における知的財産に関する契約が困難	19	-	14.1
マテリアルトランスファーを伴う契約や制度運用が困難	12	-	8.9
プログラム著作権に関する取り決めや契約が困難	16	-	11.9
ノウハウなど秘密情報の管理に関する契約が困難	25	-	18.5
その他	3	-	2.2
合計	135		100.0

Q5-1. あなたの分野に関わりを持つ知的財産権を獲得することは、あなたの研究活動のインセンティブとなると思われますか。【択一】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
大いにインセンティブにつながっている	15	-	7.0
どちらかといえばインセンティブにつながっている	90	-	42.3
あまりインセンティブにはならない	87	-	40.8
全くインセンティブにはならない	21	-	9.9
その他	0	-	0
合計	213		100.0

Q5-2. Q5-1で「①大いにインセンティブにつながっている」「②どちらかといえばインセンティブにつながっている」と回答された方にお聞きします。

知的財産権がもたらす研究活動へのインセンティブはどのようなものですか。

【複数選択可】

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
個人への金銭的報酬（特許の発明報奨など）がある	58	-	55.2
業績として評価される	68	-	64.8
名声や評判につながる	22	-	21.0
発明者、創業者の名誉が守られる	23	-	21.9
研究資金や開発予算の獲得につながる	26	-	24.8
所属機関に貢献する	24	-	22.9
産業界・社会への貢献	14	-	13.3
その他	0	-	0.0
合計	105		100.0

(6)大学に対するアンケート・ヒアリング調査結果

大学に対するアンケート結果

Q1-1. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座を開講していますか？

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
開講している	26	86.7	81.3
開講していない	4	13.3	12.5
無回答	2	-	6.3
合計	32		100

Q1-2. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学年（複数回答可）

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
学部 1 年	6	10.0	9.2
学部 2 年	7	11.7	10.8
学部 3 年	19	31.7	29.2
学部 4 年	18	30.0	27.7
修士 1 年	5	8.3	7.7
修士 2 年	2	3.3	3.1
博士 1 年	2	3.3	3.1
博士 2 年	1	1.7	1.5
無回答	5	-	7.7
合計	65		100

Q1-3. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学生の学部（複数回答可）

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
工学	10	32.3	28.6
理工学	9	29.0	25.7
理学	3	9.7	8.6
薬学	2	6.5	5.7
医学	2	6.5	5.7
海洋工学	1	3.2	2.9
基礎工学	1	3.2	2.9
情報工学	1	3.2	2.9
工学資源	1	3.2	2.9
全学部	1	3.2	2.9
無回答	4	-	11.4
	35		100

Q1-4. 貴大学における理工学部の学生を対象とした知的財産教育講座の具体的な内容はどのようなものですか？（複数回答可）

知的財産制度全般の概要	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	26	-	81.3
無回答	6	-	18.8
合計	32		100.0

特許制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	22	-	68.8
無回答	10	-	31.3
合計	32		100.0

特許制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	23	-	71.9
無回答	9	-	28.1
合計	32		100.0

特許制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	13	-	40.6
無回答	19	-	59.4
合計	32		100.0

意匠制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	21	-	65.6
無回答	11	-	34.4
合計	32		100.0

意匠制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	10	-	31.3
無回答	22	-	68.8
合計	32		100.0

意匠制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	0	-	0.0
無回答	32	-	100.0
合計	32		100.0

商標制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	22	-	68.8
無回答	10	-	31.3
合計	32		100.0

商標制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	7	-	21.9
無回答	25	-	78.1
合計	32		100.0

商標制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	1	-	3.1
無回答	31	-	96.9
合計	32		100.0

Q2. 研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識や、企業・大学と共同研究を行うにあたり、それに参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識として以下の項目が重要と考えられるところですが、各項目についての必要性などについてお答えください。

Q2-1. 特許要件の理解

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	9	28.1	28.1
知っていれば望ましい	18	56.3	56.3
必要性を感じない	5	15.6	15.6
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	10	31.3	31.3
知っていれば望ましい	20	62.5	62.5
必要性を感じない	2	6.3	6.3
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	20	69.0	62.5
取り扱っていない	9	31.0	28.1
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-2. 研究ノートの重要性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	6	18.8	18.8
知っていれば望ましい	21	65.6	65.6
必要性を感じない	5	15.6	15.6
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	25.0	25.0
知っていれば望ましい	21	65.6	65.6
必要性を感じない	3	9.4	9.4
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	12	46.2	37.5
取り扱っていない	14	53.8	43.8
無回答	6	-	18.8
合計	32		100

Q2-3. 先行技術調査の重要性：先行技術調査方法の事例紹介（IPDL、有料データベースなど主なサイトの紹介）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	16	50.0	50.0
知っていれば望ましい	15	46.9	46.9
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	15	46.9	46.9
知っていれば望ましい	16	50.0	50.0
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	18	62.1	56.3
取り扱っていない	11	37.9	34.4
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-4. 共同・委託・受託研究契約における知的財産の帰属等に関する取り決めについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	6.5	6.3
知っていれば望ましい	27	87.1	84.4
必要性を感じない	2	6.5	6.3
無回答	1	-	3.1
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	9	28.1	28.1
知っていれば望ましい	23	71.9	71.9
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	13	44.8	40.6
取り扱っていない	16	55.2	50.0
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-5. 研究中・研究終了後の秘密情報の取扱いについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	14	43.8	43.8
知っていれば望ましい	16	50.0	50.0
必要性を感じない	2	6.3	6.3
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	19	59.4	59.4
知っていれば望ましい	12	37.5	37.5
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	19	65.5	59.4
取り扱っていない	10	34.5	31.3
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-6. 安全保障貿易管理に関する知識

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	6.3	6.3
知っていれば望ましい	26	81.3	81.3
必要性を感じない	4	12.5	12.5
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	9.4	9.4
知っていれば望ましい	23	71.9	71.9
必要性を感じない	6	18.8	18.8
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	5	17.9	15.6
取り扱っていない	23	82.1	71.9
無回答	4	-	12.5
合計	32		100.0

Q2-7. 論文発表に先駆けた特許出願の必要性：新規性の判断時点の基準、学会発表や学位論文発表と特許出願の関係性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	18	56.3	56.3
知っていれば望ましい	13	40.6	40.6
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	22	68.8	68.8
知っていれば望ましい	8	25.0	25.0
必要性を感じない	2	6.3	6.3
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	24	82.8	75.0
取り扱っていない	5	17.2	15.6
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-8. 知的財産の活用の方法：電気・機械・製薬業界で行われている事例をもとに活用方法を紹介する

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	15	46.9	46.9
知っていれば望ましい	16	50.0	50.0
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	13	40.6	40.6
知っていれば望ましい	18	56.3	56.3
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0		0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	17	60.7	53.1
取り扱っていない	11	39.3	34.4
無回答	4	-	12.5
合計	32		100.0

Q2-9. 発明者の認定について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	12	37.5	37.5
知っていれば望ましい	17	53.1	53.1
必要性を感じない	3	9.4	9.4
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	15	46.9	46.9
知っていれば望ましい	16	50.0	50.0
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	16	57.1	50.0
取り扱っていない	12	42.9	37.5
無回答	4	-	12.5
合計	32		100.0

Q2-10. 職務発明と権利帰属の明確性

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	12	38.7	37.5
知っていれば望ましい	18	58.1	56.3
必要性を感じない	1	3.2	3.1
無回答	1	-	3.1
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	14	45.2	43.8
知っていれば望ましい	17	54.8	53.1
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	3.1
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	14	51.9	43.8
取り扱っていない	13	48.1	40.6
無回答	5	-	15.6
合計	32		100.0

Q2-11. 他人の特許権の利用について（基本特許と改良特許の権利関係・試験研究のための他人の特許権の利用等）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	15	46.9	46.9
知っていれば望ましい	16	50.0	50.0
必要性を感じない	1	3.1	3.1
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	13	41.9	40.6
知っていれば望ましい	16	51.6	50.0
必要性を感じない	2	6.5	6.3
無回答	1	-	3.1
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	16	57.1	50.0
取り扱っていない	12	42.9	37.5
無回答	4	-	12.5
合計	32		100.0

Q2-12. 知的財産権の行使における独占禁止法上の留意点について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	6.3	6.3
知っていれば望ましい	27	84.4	84.4
必要性を感じない	3	9.4	9.4
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	3.1	3.1
知っていれば望ましい	25	78.1	78.1
必要性を感じない	6	18.8	18.8
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	4	14.3	12.5
取り扱っていない	24	85.7	75.0
無回答	4	-	12.5
合計	32		100.0

Q2-13. 著作権法の留意点（職務著作、引用、例外的使用）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	13	40.6	40.6
知っていれば望ましい	19	59.4	59.4
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	14	43.8	43.8
知っていれば望ましい	18	56.3	56.3
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	18	62.1	56.3
取り扱っていない	11	37.9	34.4
無回答	3	-	9.4
合計	32		100.0

Q2-14. ネットワーク社会における知的財産権法に関する留意点一般について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	17	53.1	53.1
知っていれば望ましい	15	46.9	46.9
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	18	56.3	56.3
知っていれば望ましい	14	43.8	43.8
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	32		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	10	37.0	31.3
取り扱っていない	17	63.0	53.1
無回答	5	-	15.6
合計	32		100.0

大学に対するヒアリング結果

Q1-1. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座を開講していますか?

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
開講している	17	94.4	94.4
開講していない	1	5.6	5.6
無回答	0	-	0.0
計	18		100.0

Q1-2. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学年(複数回答可)

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
学部 1 年	7	-	17.9
学部 2 年	4	-	10.3
学部 3 年	9	-	23.1
学部 4 年	10	-	25.6
大学院	9	-	23.1
合計	39		100.0

※M1 : 2 件、M2 : 1 件、大学院 : 3 件 修士課程 : 1 件、博士課程 : 1 件、の回答を大学院として一つにまとめた。

Q1-3. 理工系学部の学生を対象とした知的財産教育講座の対象学生の学部(複数回答可)

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
工学	8	-	40.0
理工学	3	-	15.0
理学	2	-	10.0
薬学	1	-	5.0
医学	1	-	5.0
全学	5	-	25.0
合計	20		100

Q1-4. 貴大学における理工学部 of 学生を対象とした知的財産教育講座の具体的な内容はどのようなものですか? (複数回答可)

知的財産制度全般の概要	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	16	-	88.9
実施していない	2	-	11.1
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

特許制度 (入門)	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	17	-	94.4
実施していない	1	-	5.6
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

特許制度 (初級)	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	14	-	77.8
実施していない	4	-	22.2
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

特許制度 (中・上級)	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	8	-	44.4
実施していない	10	-	55.6
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

特許制度についてのコメント：

「発明の創成、特許を受ける権利の発生、出願、出願公開、権利発生などの全体の流れをまず説明する。そのようにしないと学生は混乱してしまう。明細書の記載要件などは省略している。特許出願のところで、明細書、請求の範囲、図面、要約書などを説明している。」（技術経営、教員）

「3年生に教えているのは、発明提案書、先行技術調査、明細書の書き方である。学生には、題材となる発明の具体例を日常品から選んで、書かせている。」（技術経営、教員）

「発明の把握、学生の専門技術分野に特化した特許情報検索と分析、特許発明の技術的範囲の解釈等、特許法にかなりの比重を置き理系学生に合わせた体系的な教育を実施。」（産学連携、教員）「特許制度」（工学、教員）

意匠制度（入門）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	9	-	50.0
実施していない	9	-	50.0
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

意匠制度（初級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	3	-	16.7
実施していない	15	-	83.3
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

意匠制度（中・上級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	0	-	0.0
実施していない	18	-	100.0
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

意匠制度についてのコメント：

「保護対象に着目した内容」（技術経営、教員）

商標制度（入門）	n		全体
実施している	12	-	66.7
実施していない	6	-	33.3
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

商標制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	3	-	16.7
実施していない	15	-	83.3
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

商標制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	0	-	0.0
実施していない	18	-	100.0
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

商標についてのコメント：

「保護対象に着目した内容」（技術経営、教員）との回答もあった。

その他コメント：

・著作権について

6 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

「概要」（理工学、非常勤）

「入門」（経営、教員）

「若干」（工学、教員）

「ソフトウェアの発明とプログラム著作物の相違点など、技術分野での
研究開発時に発生する問題処理等」（産学連携、教員）、

「目的、保護対象、著作者、権利、制限、保護期間、隣接権、利用、
民事上の救済、刑事上の制裁」（産学連携、非常勤）

・実用新案権について

3 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

・種苗法について

2 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

・不正競争防止法について

3 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

「入門」（経営、教員）

「営業秘密中心」（産学連携、教員）

・外為法について

1 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

・半導体集積回路法について

1 大学が実施している知財教育の具体的内容にあたるとの回答を示した。

・その他

「知的財産概論・演習、コンテンツ知的財産、産学連携」（技術経営、教員）

Q2. 研究者・開発者・技術者として入社する理工系学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識や、企業・大学と共同研究を行うにあたり、それに参加する学生が知っておくべきと考える知的財産に関する知識として以下の項目が重要と考えられるところですが、各項目についての必要性などについてお答えください。

Q2-1. 特許要件の理解

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	11	-	61.1
知っていれば望ましい	5	-	27.8
必要性を感じない	2	-	11.1
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	12	70.6	66.7
知っていれば望ましい	2	11.8	11.1
必要性を感じない	3	17.6	16.7
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	16	-	88.9
取り扱っていない	2	-	11.1
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

Q2-2. 研究ノートの重要性

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	7	41.2	38.9
知っていれば望ましい	6	35.3	33.3
必要性を感じない	4	23.5	22.2
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	53.3	44.4
知っていれば望ましい	4	26.7	22.2
必要性を感じない	3	20.0	16.7
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	5	31.3	27.8
取り扱っていない	11	68.8	61.1
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-3. 先行技術調査の重要性：先行技術調査方法の事例紹介（IPDL、有料データベースなど主なサイトの紹介）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	11	64.7	61.1
知っていれば望ましい	5	29.4	27.8
必要性を感じない	1	5.9	5.6
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	11	73.3	61.1
知っていれば望ましい	4	26.7	22.2
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	14	-	77.8
取り扱っていない	4	-	22.2
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

Q2-4. 共同・委託・受託研究契約における知的財産の帰属等に関する取り決めについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	6	37.5	33.3
知っていれば望ましい	10	62.5	55.6
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	9	60.0	50.0
知っていれば望ましい	6	40.0	33.3
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	9	56.3	50.0
取り扱っていない	7	43.8	38.9
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-5. 研究中・研究終了後の秘密情報の取扱いについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	9	52.9	50.0
知っていれば望ましい	7	41.2	38.9
必要性を感じない	1	5.9	5.6
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	10	62.5	55.6
知っていれば望ましい	6	37.5	33.3
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	8	50.0	44.4
取り扱っていない	8	50.0	44.4
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-6. 安全保障貿易管理に関する知識

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	2	13.3	11.1
知っていれば望ましい	9	60.0	50.0
必要性を感じない	4	26.7	22.2
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	5	33.3	27.8
知っていれば望ましい	5	33.3	27.8
必要性を感じない	5	33.3	27.8
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	5	-	27.8
取り扱っていない	13	-	72.2
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

Q2-7. 論文発表に先駆けた特許出願の必要性：新規性の判断時点の基準、学会発表や学位論文発表と特許出願の関係性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	14	-	77.8
知っていれば望ましい	4	-	22.2
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	15	88.2	83.3
知っていれば望ましい	2	11.8	11.1
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	14	-	77.8
取り扱っていない	4	-	22.2
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

Q2-8. 知的財産の活用の方法：電気・機械・製薬業界で行われている事例をもとに活用方法を紹介する

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	7	50.0	38.9
知っていれば望ましい	6	42.9	33.3
必要性を感じない	1	7.1	5.6
無回答	4	-	22.2
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	7	50.0	38.9
知っていれば望ましい	6	42.9	33.3
必要性を感じない	1	7.1	5.6
無回答	4	-	22.2
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	12	80.0	66.7
取り扱っていない	3	20.0	16.7
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

Q2-9. 発明者の認定について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	50.0	44.4
知っていれば望ましい	7	43.8	38.9
必要性を感じない	1	6.3	5.6
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	50.0	44.4
知っていれば望ましい	7	43.8	38.9
必要性を感じない	1	6.3	5.6
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
取り扱っている	8	50.0	44.4
取り扱っていない	8	50.0	44.4
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-10. 職務発明と権利帰属の明確性

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	10	58.8	55.6
知っていれば望ましい	6	35.3	33.3
必要性を感じない	1	5.9	5.6
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	10	62.5	55.6
知っていれば望ましい	6	37.5	33.3
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	16	-	88.9
取り扱っていない	2	-	11.1
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

Q2-11. 他人の特許権の利用について(基本特許と改良特許の権利関係・試験研究のための他人の特許権の利用等)

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	9	-	50.0
知っていれば望ましい	8	-	44.4
必要性を感じない	1	-	5.6
無回答	0	-	0.0
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	8	47.1	44.4
知っていれば望ましい	8	47.1	44.4
必要性を感じない	1	5.9	5.6
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	12	75.0	66.7
取り扱っていない	4	25.0	22.2
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-12. 知的財産権の行使における独占禁止法上の留意点について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	5.9	5.6
知っていれば望ましい	11	64.7	61.1
必要性を感じない	5	29.4	27.8
無回答	1	-	5.6
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	6.3	5.6
知っていれば望ましい	9	56.3	50.0
必要性を感じない	6	37.5	33.3
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	4	25.0	22.2
取り扱っていない	12	75.0	66.7
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-13. 著作権法の留意点（職務著作、引用、例外的使用）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	9	56.3	50.0
知っていれば望ましい	7	43.8	38.9
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	9	60.0	50.0
知っていれば望ましい	6	40.0	33.3
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	3	-	16.7
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	13	81.3	72.2
取り扱っていない	3	18.8	16.7
無回答	2	-	11.1
合計	18		100.0

Q2-14. ネットワーク社会における知的財産権法に関する留意点一般について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	6	46.2	33.3
知っていれば望ましい	6	46.2	33.3
必要性を感じない	1	7.7	5.6
無回答	5	-	27.8
合計	18		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	6	46.2	33.3
知っていれば望ましい	6	46.2	33.3
必要性を感じない	1	7.7	5.6
無回答	5	-	27.8
合計	18		100.0

取扱いの有無	n	除く無回答 (%)	全体(%)
取り扱っている	5	38.5	27.8
取り扱っていない	8	61.5	41.4
無回答	5	-	27.8
合計	18		100.0

(7)企業に対するアンケート・ヒアリング調査結果

企業に対するアンケート結果

Q1. 御社では、研究者・開発者・技術者に対して、知的財産制度に関する社内教育を実施していますか？

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
実施している	5	-	100.0
実施していない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q1-2. 御社で実施している社内教育の対象者、時期、頻度、期間などについて

入社年数	回数	研修時間	内容・狙い
1年目	1	1時間	職務発明制度
1年目	1	2時間	初級研修
1年目	1	3時間	知財4法の制度、内容についての基本。簡単な事例。
1年目	1	6時間	新人用導入教育
1年目	1	2週間	大卒全新入社員・座学・実習
2~3年目	1	2時間	知的財産の基礎
3年目	5	6時間	特許要件と社内発明届出
4~10年目	1	2時間	知的財産の中級編
5年目	1	5時間	上級研修
5年目	5	6時間	進歩性について
5年目	3	6時間	発明の展開について
5年目	3	12時間	クレーム解釈について
5~10年目	1	1週間	中堅社員（技術）・座学・実習
15年目	3	3時間	特許戦略について
限定せず	不定期	2時間	教育ニーズがある部門、教育の必要性がある部門に、その部門の製品分野について他者の出願状況、自社の係争事例、その部門の発明分野における権利判断の仕方、発明（出願）の考え方教育。

Q1-3. 御社で入社後数年程度の研究者・開発者・技術者に対して実施している知的財産権制度に関する社内教育の具体的な内容はどのようなものですか？

知的財産制度全般の概要	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	3	-	60.0
無回答	2	-	40.0
合計	5		100.0

特許制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	4	-	80.0
無回答	1	-	20.0
合計	5		100.0

特許制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	5	-	100.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

特許制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	4	-	80.0
無回答	1	-	20.0
合計	5		100.0

意匠制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	1	-	20.0
無回答	4	-	80.0
合計	5		100.0

意匠制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	3	-	60.0
無回答	2	-	40.0
合計	5		100.0

意匠制度（中・上級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	1	-	20.0
無回答	4	-	80.0
合計	5		100.0

商標制度（入門）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	2	-	40.0
無回答	3	-	60.0
合計	5		100.0

商標制度（初級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	2	-	40.0
無回答	3	-	60.0
合計	5		100.0

商標制度（中・上級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	0	-	0.0
無回答	5	-	100.0
合計	5		100.0

Q2-1. 特許要件の理解

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	20.0	20.0
知っていれば望ましい	3	60.0	60.0
必要性を感じない	1	20.0	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	20.0	20.0
知っていれば望ましい	3	60.0	60.0
必要性を感じない	1	20.0	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-2. 研究ノート的重要性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	20.0	20.0
知っていれば望ましい	3	60.0	60.0
必要性を感じない	1	20.0	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	20.0	20.0
知っていれば望ましい	2	40.0	40.0
必要性を感じない	2	40.0	40.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-3. 先行技術調査の重要性：先行技術調査方法の事例紹介（IPDL、有料データベースなど主なサイトの紹介）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	4	-	80.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-4. 共同・委託・受託研究契約における知的財産の帰属等に関する取り決めについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	3	-	60.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-5. 研究中・研究終了後の秘密情報の取扱いについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	60.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-6. 安全保障貿易管理に関する知識

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	5	-	100.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-7. 論文発表に先駆けた特許出願の必要性：新規性の判断時点の基準、学会発表や学位論文発表と特許出願の関係性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	4	-	80.0
知っていれば望ましい	1	-	20.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-8. 知的財産の活用の方法：電気・機械・製薬業界で行われている事例をもとに活用方法を紹介する

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	2	-	40.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	5	-	100.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-9. 発明者の認定について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	2	-	40.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-10. 職務発明と権利帰属の明確性

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	5	-	100.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-11. 他人の特許権の利用について（基本特許と改良特許の権利関係・試験研究のための他人の特許権の利用等）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	25.0	20.0
知っていれば望ましい	2	50.0	40.0
必要性を感じない	1	25.0	20.0
無回答	1	-	20.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	0.0	0.0
知っていれば望ましい	4	100.0	80.0
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	20.0
合計	5		100.0

Q2-12. 知的財産権の行使における独占禁止法上の留意点について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	4	-	80.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	4	-	80.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-13. 著作権法の留意点（職務著作、引用、例外的使用）

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	2	-	40.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	20.0
知っていれば望ましい	3	-	60.0
必要性を感じない	1	-	20.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

Q2-14. ネットワーク社会における知的財産権法に関する留意点一般について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	60.0
知っていれば望ましい	2	-	40.0
必要性を感じない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	5		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	50.0	40.0
知っていれば望ましい	2	50.0	40.0
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	20.0
合計	5		100.0

企業に対するヒアリング結果

Q1. 御社では、研究者・開発者・技術者に対して、知的財産制度に関する社内教育を実施していますか？

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
実施している	12	-	85.7
実施していない	2	-	14.3
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q1-2. 御社で実施している社内教育の対象者、時期、頻度、期間などについて

入社年数	回数	研修時間	内容・狙い
1年目		2時間	社員・社会人として知財の注意点を教育
1年目		1日間	基礎的なコース。知的財産概論
1年目	1	1時間	特許とはどのようなものか説明、契約、情報検索の概要
1年目	1	4時間	特許の基本的な学習
1年目	1	4時間	特許侵害対策セミナー
1年目	1	1日間	企業における知的財産の意味理解
1年目	1	2日間	特許に関する実務的な知識
1年目	2~3		特許法概要。説明書の読み方
1-2年目	1	4時間	アイデア作成ペーパー作成研修
1-3年目	5~6 (8~2月)		
2年目	1	4時間	明細書作成実践
2年目		5時間	知財制度の概要を説明
2年目	2~3		先願調査実践
2~3年目	1	7時間	知的財産権リスク全般（主に知識）（営業部門向け）
3年目	2~3		明細書起案
入社後数年		1泊2日	演習を含めた実務研修。制度・クレーム解釈・鑑定実習等
4年目	1	2日間	実習
4年目~		社外研修	グループリーダークラスの研修として
6年目	2	3時間	特許戦略基礎
7~9年目	1	7時間	知的財産権リスク全般（主に実例）（営業部門向け）
10年目	2	3時間	特許戦略活用、権利化の例、紛争事例研究、マネジメント
研究部門	5~6 (8~2月)		

管理職 主任昇格時	1	1日	契約などのマネジメント：共同開発契約等 再確認のため知的財産の研修
希望者	1	2時間	特許侵害対策セミナー
希望者	1	3時間	著作権セミナー（トピック中心）
e-learning	半年に1 回		開発系は特許中心、一般職には著作権・商標中心
全員対象	随時		知的財産法の基礎（e-learning）
全員対象	製品開発 時		発明相談、発掘会議、個別出願相談（OJT）
特に決めていないが、 研究所が人選。			事例演習、簡単な論文からどのような発明が内在しているのかを抽出する演習 技術説明書を事故の業務から発明を抽出して作成する演習
			アドバンス研修 出願手続きはやらないが、拒絶理由への対応、侵害警告への対処法など
その他			いろんなくくり、階層別、事業所、研究所単位でスポット的に知財の実例を紹介する研修をしている。

Q1-3. 御社で入社後数年程度の研究者・開発者・技術者に対して実施している知的財産権制度に関する社内教育の具体的な内容はどのようなものですか?

知的財産制度全般の概要	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	11	-	78.6
実施していない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

特許制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	11	-	78.6
実施していない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

特許制度（初級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	10	-	71.4
実施していない	4	-	28.6
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

特許制度（中・上級）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	5	-	35.7
実施していない	9	-	64.3
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

意匠制度（入門）	n	除く無回答 (%)	全体
実施している	5	-	35.7
実施していない	9	-	64.3
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

意匠制度（初級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	3	-	21.4
実施していない	11	-	78.6
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

意匠制度（中・上級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	1	-	7.1
実施していない	13	-	92.9
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

商標制度（入門）	n		全体
実施している	7	-	50.0
実施していない	7	-	50.0
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

商標制度（初級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	3	-	21.4
実施していない	11	-	78.6
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

商標制度（中・上級）	n	除く無回答 （%）	全体
実施している	1	-	7.1
実施していない	13	-	92.9
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-1. 特許要件の理解

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	21.4
知っていれば望ましい	8	-	57.1
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	21.4
知っていれば望ましい	9	-	64.3
必要性を感じない	2	-	14.3
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-2. 研究ノートの重要性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	7.1
知っていれば望ましい	5	-	35.7
必要性を感じない	8	-	57.1
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	21.4
知っていれば望ましい	3	-	21.4
必要性を感じない	8	-	57.1
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-3. 先行技術調査の重要性: 先行技術調査方法の事例紹介 (IPDL、有料データベースなど主なサイトの紹介)

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	4	-	28.6
知っていれば望ましい	9	-	64.3
必要性を感じない	1	-	7.1
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	4	30.8	28.6
知っていれば望ましい	8	61.5	57.1
必要性を感じない	1	7.7	7.1
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-4. 共同・委託・受託研究契約における知的財産の帰属等に関する取り決めについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	9	-	64.3
必要性を感じない	5	-	35.7
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	21.4
知っていれば望ましい	8	-	57.1
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-5. 研究中・研究終了後の秘密情報の取扱いについて

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	5	38.5	35.7
知っていれば望ましい	6	46.2	42.9
必要性を感じない	2	15.4	14.3
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	61.5	57.1
知っていれば望ましい	5	38.5	35.7
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-6. 安全保障貿易管理に関する知識

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	7.1
知っていれば望ましい	5	-	35.7
必要性を感じない	8	-	57.1
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	15.4	14.3
知っていれば望ましい	5	38.5	35.7
必要性を感じない	6	46.2	42.9
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-7. 論文発表に先駆けた特許出願の必要性:新規性の判断時点の基準、学会発表や学位論文発表と特許出願の関係性について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	61.5	57.1
知っていれば望ましい	3	23.1	21.4
必要性を感じない	2	15.4	14.3
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	8	61.5	57.1
知っていれば望ましい	5	38.5	35.7
必要性を感じない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-8. 知的財産の活用の方法:電気・機械・製薬業界で行われている事例をもとに活用方法を紹介する

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	-	21.4
知っていれば望ましい	7	-	50.0
必要性を感じない	4	-	28.6
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	15.4	14.3
知っていれば望ましい	7	53.8	50.0
必要性を感じない	4	30.8	28.6
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-9. 発明者の認定について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	7.7	7.1
知っていれば望ましい	8	61.5	57.1
必要性を感じない	4	30.8	28.6
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	3	23.1	21.4
知っていれば望ましい	8	61.5	57.1
必要性を感じない	2	15.4	14.3
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

Q2-10. 職務発明と権利帰属の明確性

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	4	-	28.6
知っていれば望ましい	7	-	50.0
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	5	-	35.7
知っていれば望ましい	6	-	42.9
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-11. 他人の特許権の利用について(基本特許と改良特許の権利関係・試験研究のための他人の特許権の利用等)

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	1	-	7.1
知っていれば望ましい	7	-	50.0
必要性を感じない	6	-	42.9
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0
共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	-	14.3
知っていれば望ましい	9	-	64.3
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-12. 知的財産権の行使における独占禁止法上の留意点について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	1	-	7.1
必要性を感じない	13	-	92.9
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0
共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	0	-	0.0
知っていれば望ましい	1	-	7.1
必要性を感じない	13	-	92.9
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-13. 著作権法の留意点(職務著作、引用、例外的使用)

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	-	14.3
知っていれば望ましい	9	-	64.3
必要性を感じない	3	-	21.4
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	2	-	14.3
知っていれば望ましい	11	-	78.6
必要性を感じない	1	-	7.1
無回答	0	-	0.0
合計	14		100.0

Q2-14. ネットワーク社会における知的財産権法に関する留意点一般について

将来就職する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	6	46.2	42.9
知っていれば望ましい	5	38.5	35.7
必要性を感じない	2	15.4	14.3
無回答	1	-	7.1
合計	6	46.2	42.9

共同研究に参加する学生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
必須	6	46.2	42.9
知っていれば望ましい	5	38.5	35.7
必要性を感じない	2	15.4	14.3
無回答	1	-	7.1
合計	14		100.0

(8) 検証講義アンケート調査結果

検証講義アンケート結果

第一回

〔1〕あなた自身について

Q1 あなたの所属・学年

学部・研究科	n	除く無回答 (%)	全体(%)
薬学	8	-	21.1
工学	8	-	21.1
理学	2	-	5.3
イノベーションマネジメント	4	-	10.5
情報科学	2	-	5.3
バイオサイエンス	13	-	34.2
法学	1	-	2.6
経済学	0	-	0.0
外国語学	0	-	0.0
基礎工学	0	-	0.0
その他	0	-	0.0
合計	38		100.0

学年	n	除く無回答 (%)	全体(%)
B1	0	-	0.0
B2	0	-	0.0
B3	1	-	2.6
B4	6	-	15.8
B5	2	-	5.3
B6	0	-	0.0
M1	17	-	44.7
M2	10	-	26.3
D1	0	-	0.0
D2	1	-	2.6
その他	1	-	2.6
合計	38		100.0

Q2 あなたは今まで知的財産に関する勉強をしたことがありますか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
ある	11	32.3	28.9
ない	23	67.6	60.5
無回答	4	-	10.5
合計	38		100.0

〔2〕 講義内容について

Q4 講義内容の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 簡単すぎる	0	0.0	0.0
2 やや簡単	2	5.4	5.2
3 適切	29	78.3	76.3
4 やや難しい	6	16.2	15.7
5 難しすぎる	0	0.0	0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

Q5 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 見易い	5	-	13.1
2 やや見易い	10	-	26.3
3 普通	18	-	47.3
4 やや見難い	5	-	13.1
5 見難い	0	-	0
無回答	0	-	0
合計	38		100.0

Q6 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体(%)
1 少なすぎる	0	0.0	0.0
2 やや少ない	1	2.7	2.6
3 適切	30	81.0	78.9
4 やや多い	4	10.8	10.5
5 多すぎる	2	5.4	5.2
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

[3] 各講義項目について

Q8 講義項目に関する印象をお聞かせください

(5:よく分かった → 4 → 3:普通 → 2 → 1:よく分からなかった)

全体	n	除く無回答 (%)	全体(%)
5	6	-	15.8
4	19	-	50.0
3	13	-	34.2
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	38		100.0

① 特許の一生	n	除く無回答 (%)	全体(%)
5	11	29.7	28.9
4	14	37.8	36.8
3	9	24.3	23.6
2	3	8.1	7.8
1	0	0.0	0.0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

② 特許から見た世界での日本の位置付け	n	除く無回答 (%)	全体(%)
5	2	5.7	5.3
4	7	20.0	18.4
3	20	57.1	52.6
2	5	14.2	13.1
1	1	2.8	2.6
無回答	3	-	7.8
合計	38		100.0

〔4〕 全体的に

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思われましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体(%)
5 そう思う	12	-	31.5
4 ややそう思う	13	-	34.2
3 普通	10	-	26.3
2 あまりそう思わない	3	-	7.8
1 思わない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	38		100.0

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体(%)
5 そう思う	11	29.7	28.9
4 ややそう思う	17	45.9	44.7
3 普通	9	24.3	23.6
2 あまりそう思わない	0	0.0	0
1 思わない	0	0.0	0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

第二回

〔1〕 あなた自身について

Q1 あなたの所属・学年

学部・研究科	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
薬学	8	-	14.8
工学	8	-	14.8
理学	6	-	11.1
イノベーションマネジメント	4	-	7.4
情報科学	3	-	5.5
バイオサイエンス	22	-	40.7
法学	0	-	0
経済学	1	-	1.8
外国語学	1	-	1.8
基礎工学	1	-	1.8
無回答	0	-	0
合計	54		100.0

学年	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
B1	5	9.4	9.2
B2	0	0.0	0.0
B3	2	3.7	3.7
B4	3	5.6	5.5
B5	2	3.7	3.7
B6	0	0.0	0.0
M1	27	50.0	50.0
M2	11	20.3	20.3
D1	1	1.8	1.8
D2	2	3.7	3.7
その他	1	1.8	1.8
合計	54		100.0

Q2 あなたは今まで知的財産に関する勉強をしたことがありますか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
ある	18	35.2	33.3
ない	33	64.7	61.1
無回答	3	-	5.5
合計	54		100.0

〔2〕 講義内容について

Q4 講義内容の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 簡単すぎる	0	0.0	0.0
2 やや簡単	3	5.7	5.5
3 適切	41	78.8	75.9
4 やや難しい	8	15.3	14.8
5 難しすぎる	0	0.0	0.0
無回答	2	-	3.7
合計	54		100.0

Q5 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 見易い	15	29.4	27.7
2 やや見易い	10	19.6	18.5
3 普通	22	43.1	40.7
4 やや見難い	3	5.8	5.5
5 見難い	1	1.9	1.8
無回答	3	-	5.5
合計	54		100.0

Q6 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 少なすぎる	0	0.0	0.0
2 やや少ない	3	5.7	5.5
3 適切	38	73.0	70.3
4 やや多い	11	21.1	20.3
5 多すぎる	0	0.0	0.0
無回答	2	-	3.7
合計	54		100.0

[3] 各講義項目について

Q8 講義項目に関する印象をお聞かせください

(5:よく分かった → 4 → 3:普通 → 2 → 1:よく分からなかった)

全体について	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	16	29.6	29.3
4	25	46.2	46.2
3	11	20.3	20.3
2	0	0.0	0.0
1	0	0.0	0.0
無回答	2	-	3.7
合計	54		100.0

①研究活動と知的財産	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	19	35.8	35.1
4	22	41.5	40.7
3	9	16.9	16.6
2	3	5.6	5.5
1	0	0.0	0.0
無回答	1	-	1.8
合計	54		100.0

②秘密情報の管理	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	24	45.2	44.4
4	19	35.8	35.1
3	10	18.8	18.5
2	0	0.0	0.0
1	0	0.0	0.0
無回答	1	-	1.8
合計	54		100.0%

③他人の知的財産の利用	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	11	22.4	20.3
4	15	30.6	27.7
3	18	36.7	33.3
2	5	10.2	9.2
1	0	0.0	0.0
無回答	5	-	9.2
合計	54		100.0

〔4〕 全体的に

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	24	-	44.4
4 ややそう思う	24	-	44.4
3 普通	6	-	11.1
2 あまりそう思わない	0	-	0.0
1 思わない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	54		100.0

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	27	-	50.0
4 ややそう思う	18	-	33.3
3 普通	9	-	16.6
2 あまりそう思わない	0	-	0.0
1 思わない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	54		100.0

第三回

〔1〕 あなた自身について

Q1 あなたの所属・学年

学部・研究科	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
薬学	9	20.9	20.4
工学	9	20.9	20.4
理学	2	4.6	4.5
イノベーションマネジメント	5	44.2	11.3
情報科学	2	4.6	4.5
バイオサイエンス	15	34.8	34.0
法学	1	2.3	2.2
経済学	0	0.0	0.0
外国語学	0	0.0	0.0
基礎工学	0	0.0	0.0
無回答	1	-	2.2
合計	44		100.0

学年	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
B1	0	-	0.0
B2	0	-	0.0
B3	1	-	2.2
B4	6	-	13.6
B5	2	-	4.5
B6	0	-	0.0
M1	18	-	40.9
M2	14	-	31.8
D1	0	-	0.0
D2	1	-	2.2
その他	2	-	4.5
合計	44		100.0

Q2 あなたは今まで知的財産に関する勉強をしたことがありますか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
ある	15	35.7	34.0
ない	27	64.2	61.3
無回答	2	-	4.5
合計	44		100.0

〔2〕 講義内容について

Q4 講義内容の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 簡単すぎる	2	4.6	4.5
2 やや簡単	5	11.6	11.3
3 適切	22	51.1	50.0
4 やや難しい	13	30.2	29.5
5 難しすぎる	1	2.3	2.2
無回答	1	-	2.2
合計	44		100.0

Q5 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 見易い	7	16.2	15.9
2 やや見易い	11	25.5	25.0
3 普通	17	39.5	38.6
4 やや見難い	8	18.6	18.1
5 見難い	0	0.0	0
無回答	1	2.3	2.2
合計	44		100.0

Q6 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 少なすぎる	0	0.0	0.0
2 やや少ない	7	16.6	15.9
3 適切	24	57.1	54.5
4 やや多い	10	23.8	22.7
5 多すぎる	1	2.3	2.2
無回答	2	-	45.4
合計	44		100.0

[3] 各講義項目について

Q8 講義項目に関する印象をお聞かせください

(5 : よく分かった → 4 → 3 : 普通 → 2 → 1 : よく分からなかった)

全体について	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	5	11.6	11.3
4	20	46.5	45.4
3	14	32.5	31.8
2	3	6.9	6.8
1	1	2.3	2.2
無回答	1	-	2.2
合計	44		100.0

① 発明は誰のものか	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	17	40.4	38.6
4	12	28.5	27.2
3	10	23.8	22.7
2	3	7.1	6.8
1	0	0.0	0.0
無回答	2	-	4.5
合計	44		100.0

②特定技術分野と知財	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	11	26.8	25.0
4	11	26.8	25.0
3	13	31.7	29.5
2	4	9.7	9.0
1	2	4.8	4.5
無回答	3	-	6.8
合計			100.0

② 同・受託研究	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	7	17.0	15.9
4	15	36.5	34.0
3	13	31.7	29.5
2	5	12.1	11.3
1	1	2.4	2.2
無回答	3	-	6.8
合計	44		100.0

④知財の活用	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	5	12.5	11.3
4	12	30.0	27.2
3	17	42.5	38.6
2	5	12.5	11.3
1	1	2.5	2.2
無回答	4	-	9.0
合計	44		100.0

〔4〕 全体的に

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思いましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	17	41.4	38.6
4 ややそう思う	16	39.0	36.3
3 普通	6	14.6	13.6
2 あまりそう思わない	2	4.8	4.5
1 思わない	0	0.0	0.0
無回答	3	-	6.8
合計	44		100.0

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	15	37.5	34.0
4 ややそう思う	16	40.0	36.3
3 普通	7	17.5	15.9
2 あまりそう思わない	2	5.0	4.5
1 思わない	0	0.0	0.0
無回答	4	-	9.0
合計	44		100.0

第四回

〔1〕 あなた自身について

Q1 あなたの所属・学年

学部・研究科	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
薬学	8	-	21.0
工学	8	-	21.0
理学	2	-	5.2
イノベーションマネジメント	4	-	10.5
情報科学	2	-	5.2
バイオサイエンス	13	-	34.2
法学	1	-	2.6
経済学	0	-	0
外国語学	0	-	0
基礎工学	0	-	0
無回答	0	-	0
合計	38		100.0

学年	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
B1	0	0.0	0.0
B2	0	0.0	0.0
B3	1	2.7	2.6
B4	6	16.2	15.7
B5	2	5.4	5.2
B6	0	0.0	0.0
M1	17	45.9	44.7
M2	10	27.0	26.3
D1	0	0.0	0.0
D2	1	2.7	2.6
その他	1	-	2.6
合計	38		100.0

Q2 あなたは今まで知的財産に関する勉強をしたことがありますか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
ある	11	32.3	28.9
ない	23	67.6	60.5
無回答	4	-	10.5
合計	38		100.0

〔2〕 講義内容について

Q4 講義内容の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 簡単すぎる	0	0.0	0
2 やや簡単	2	5.4	5.2
3 適切	29	78.3	76.3
4 やや難しい	6	16.2	15.7
5 難しすぎる	0	0.0	0.0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

Q5 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 見易い	5	-	13.1
2 やや見易い	10	-	26.3
3 普通	18	-	47.3
4 やや見難い	5	-	13.1
5 見難い	0	-	0
無回答	0	-	0
合計	38		100.0

Q6 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
1 少なすぎる	0	0.0	0.0
2 やや少ない	1	2.7	2.6
3 適切	30	81.0	78.9
4 やや多い	4	10.8	10.5
5 多すぎる	2	5.4	5.2
無回答	1	-	2.7
合計	38		100.0

[3] 各講義項目について

Q8 講義項目に関する印象をお聞かせください

(5:よく分かった → 4 → 3:普通 → 2 → 1:よく分からなかった)

全体について	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	6	-	15.7
4	19	-	50.0
3	13	-	34.2
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	38		100.0

① その他の知財	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	11	29.7	28.9
4	14	37.8	36.8
3	9	24.3	23.6
2	3	8.1	7.8
1	0	0.0	0.0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

② その他の知財関連制度	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	2	5.5	5.2
4	7	19.4	18.4
3	20	55.5	52.6
2	5	13.8	13.1
1	1	2.7	2.6
無回答	3	8.3	7.8
合計	38		100.0

〔4〕 全体的に

Q10 知的財産制度が自分の研究活動において重要だと思われましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	12	-	31.5
4 ややそう思う	13	-	34.2
3 普通	10	-	26.3
2 あまりそう思わない	3	-	7.8
1 思わない	0	-	0.0
無回答	0	-	0.0
合計	38		100.0

Q11 知的財産につき自分に関わるものとして興味・関心が高まりましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5 そう思う	11	29.7	28.9
4 ややそう思う	17	45.9	44.7
3 普通	9	24.3	23.6
2 あまりそう思わない	0	0.0	0.0
1 思わない	0	0.0	0.0
無回答	1	-	2.6
合計	38		100.0

教員アンケート結果

教員用 第一回

[1]講義資料について

Q1 (学生に対するものとして) 講義資料の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
簡単すぎる	0	-	0.0
やや簡単	0	-	0.0
適切	4	-	80.0
やや難しい	1	-	20.0
難しすぎる	0	-	0.0
合計	5	-	100.0

Q2 (学生に対するものとして) 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
見易い	0	-	0.0
やや見易い	0	-	0.0
普通	4	-	80.0
やや見難い	1	-	20.0
見難い	0	-	0.0
合計	5	-	100.0

Q3 (学生に対するものとして) 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
少なすぎる	0	-	0.0
やや少ない	1	-	20.0
適切	3	-	60.0
やや多い	1	-	20.0
多すぎる	0	-	0.0
合計	5	-	100.0

Q4 事例集の有用性については如何でしたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
便利	0	0.0	0.0
やや便利	1	33.3	20.0
普通	2	66.6	40.0
やや不便	0	0.0	0.0
不便	0	0.0	0.0
無回答	2	-	40.0
合計	5		100.0

(内、未使用のため無回答：1)

[2]各講義項目について

Q5 講義項目に関する（学生に対するものとしての）印象をおきかしてください。

(5：分かりやすかった → 4 → 3：普通 → 2 → 1：よく分からなかった)

<全体として>

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	2	-	40.0
3	3	-	60.0
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	5		100.0

<1時限目>

① 特許の一生	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	3	-	60.0
3	1	-	20.0
2	1	-	20.0
1	0	-	0.0
合計	5		100.0

② 特許から見た世界での日本の位置づけ	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	1	-	20.0
4	1	-	20.0
3	2	-	40.0
2	1	-	20.0
1	0	-	0.0
合計	5		100.0

[3]全体的に

Q6 全体的に、講義資料は使いやすかったですか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
使いやすい	0	-	0.0
やや使いやすい	3	-	60.0
普通	0	-	0.0
やや使いにくい	2	-	40.0
使いにくい	0	-	0.0
合計	5		100.0

教員用 第二回

[1] 講義資料について

Q1 (学生に対するものとして) 講義資料の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
簡単すぎる	0	-	0.0
やや簡単	0	-	0.0
適切	4	-	66.6
やや難しい	2	-	33.3
難しすぎる	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q2 (学生に対するものとして) 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
見易い	1	-	16.6
やや見易い	0	-	0.0
普通	3	-	50.0
やや見難い	2	-	33.3
見難い	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q3 (学生に対するものとして) 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
少なすぎる	0	-	0.0
やや少ない	1	-	16.6
適切	4	-	66.6
やや多い	1	-	16.6
多すぎる	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q4 事例集の有用性については如何でしたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
便利	0	0.0	0.0
やや便利	0	0.0	0.0
普通	3	100.0	50.0
やや不便	0	0.0	0.0
不便	0	0.0	0.0
無回答	3	-	50.0
合計	6		100.0

(内、未使用のため無回答：1)

[2]各講義項目について

Q5 講義項目に関する（学生に対するものとしての）印象をおきかしてください。

（5：分かりやすかった → 4 → 3：普通 → 2 → 1：よく分からなかった）

<全体として>

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	1	-	16.6
4	3	-	50.0
3	2	-	33.3
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	6		100.0

<2 時限目>

① 研究活動と知的財産	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	3	-	50.0
3	3	-	50.0
2	0	-	0
1	0	-	0.0
合計	6		100.0

② 秘密情報の管理	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	2	-	33.3
4	3	-	50.0
3	1	-	16.6
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	6		100.0

③ 他人の知的財産の利用	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	2	-	33.3
3	4	-	66.6
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	6		100.0

[3] 全体的に

Q6 全体的に、講義資料は使いやすかったですか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
使いやすい	1	-	16.6
やや使いやすい	2	-	33.3
普通	2	-	33.3
やや使いにくい	1	-	16.6
使いにくい	0	-	0.0
合計	6		100.0

教員用 第三回

[1] 講義資料について

Q1 (学生に対するものとして) 講義資料の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
簡単すぎる	0	-	0.0
やや簡単	1	-	25.0
適切	2	-	50.0
やや難しい	1	-	25.0
難しすぎる	0	-	0.0
合計	4		100.0

Q2 (学生に対するものとして) 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
見易い	1	-	25.0
やや見易い	1	-	25.0
普通	1	-	25.0
やや見難い	1	-	25.0
見難い	0	-	0.0
合計	4		100.0

Q3 (学生に対するものとして) 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
少なすぎる	0	-	0.0
やや少ない	2	-	50.0
適切	1	-	25.0
やや多い	1	-	25.0
多すぎる	0	-	0.0
合計	4		100.0

Q4 事例集の有用性については如何でしたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
便利	1	-	25.0
やや便利	2	-	0.0
普通	1	-	25.0
やや不便	0	-	0.0
不便	0	-	0.0
合計	4		100.0

[2]各講義項目について

Q5 講義項目に関する（学生に対するものとしての）印象をおきかせください。

（5：分かりやすかった → 4 → 3：普通 → 2 → 1：よく分からなかった）
 <全体として>

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	1	-	25.0
4	2	-	50.0
3	0	-	0.0
2	1	-	25.0
1	0	-	0.0
合計	4		100.0

<3時限目>

① 発明はだれのものか	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	2	-	50.0
3	0	-	0.0
2	2	-	50.0
1	0	-	0.0
合計	4		100.0

② 特定技術分野と知財	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	2	-	50.0
3	0	-	0.0
2	2	-	50.0
1	0	-	0.0
合計	4		100.0

③ 共同・受託研究において留意すべきこと	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	0	-	0.0
3	3	-	75.0
2	1	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	4		100.0

④ 知的財産の活用	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	-	0.0
4	1	-	25.0
3	2	-	50.0
2	1	-	25.0
1	0	-	0.0
合計	4		100.0

[3]全体的に

Q6 全体的に、講義資料は使いやすかったですか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
使いやすい	0	-	0.0
やや使いやすい	1	-	25.0
普通	3	-	75.0
やや使いにくい	0	-	0.0
使いにくい	0	-	0.0
合計	4		100.0

教員用 第四回

[1]講義資料について

Q1 (学生に対するものとして) 講義資料の難易度につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
簡単すぎる	0	-	0.0
やや簡単	1	-	16.6
適切	4	-	66.6
やや難しい	1	-	16.6
難しすぎる	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q2 (学生に対するものとして) 講義資料の見易さにつきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
見易い	0	-	0.0
やや見易い	3	-	50.0
普通	2	-	33.3
やや見難い	1	-	16.6
見難い	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q3 (学生に対するものとして) 講義資料の分量につきどう感じられましたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
少なすぎる	0	-	0.0
やや少ない	1	-	16.6
適切	3	-	50.0
やや多い	2	-	33.3
多すぎる	0	-	0.0
合計	6		100.0

Q4 事例集の有用性については如何でしたか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
便利	1	20.0	16.6
やや便利	1	20.0	16.6
普通	2	40.0	33.3
やや不便	1	20.0	16.6
不便	0	0.0	0.0
無回答	1	-	16.6
合計	6		100.0

(内、未使用のため無回答：1)

[2]各講義項目について

Q5 講義項目に関する（学生に対するものとしての）印象をおきかせください。

(5：分かりやすかった → 4 → 3：普通 → 2 → 1：よく分からなかった)

<全体として>

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	1	-	16.6
4	2	-	33.3
3	2	-	33.3
2	1	-	16.6
1	0	-	0
合計	6		100.0

<4時限目>

① その他の知財制度	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	1	-	16.6
4	4	-	66.6
3	1	-	16.6
2	0	-	0.0
1	0	-	0.0
合計	6		100.0

② その他の知財関連制度	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
5	0	0.0	0.0
4	0	0.0	0.0
3	2	50.0	33.3
2	2	50.0	33.3
1	2	-	33.3
合計	6		100.0

[3]全体的に

Q6 全体的に、講義資料は使いやすかったですか。

	n	除く無回答 (%)	全体 (%)
使いやすい	0	-	0.0
やや使いやすい	3	-	50.0
普通	3	-	50.0
やや使いにくい	0	-	0.0
使いにくい	0	-	0.0
合計	6		100.0

<アンケート意見とりまとめ>

良い点：

<1 時限>特許のあらまし

今まで勉強したことがない分野で興味深かった。

- ・マイケルやルンバの具体例が多くて分かりやすかった。(同意見 2 件)
- ・図やグラフが多くかつ、分かりやすかったため、総じて資料が見やすかった。(同意見 7 件)
- ・特許申請の仕方や効力を知ることが出来てよかった。
- ・特許や発明になるには、新規性や進歩性など細やかな要件が多くあるということが分かった。(同意見 2 件)
- ・項目分けされていて整理して話を聞くことができた。
- ・日本と外国の違いが分かってよかった。(同意見 3 件)
- ・あまり難しい単語等もなく分かりやすかった。
- ・特許に全く無知だったので勉強になった。(同意見 2 件)
- ・特許活用の具体的場面、特許提出を知ることが出来てよかった。
- ・近年の日本の特許の出願率、外国からの注目度の低さを知って意外に思った。
- ・研究との関わりと制度を説明する内容がよい。
- ・身近なところが勉強できるので、知財ってなんだろうという疑問に対する答えが得やすい。
- ・スライド又は資料が見やすい。(同意見 3 件)
- ・イラストが分かりやすかった。
- ・具体例が多くて分かりやすかった。
- ・全く知らなかったので勉強になった又は驚いた。(同意見 5 件)
- ・比較して説明してもらえたので分かりやすかった。
- ・難しい用語が出てこなかったのが分かりやすかった。
- ・いくつか理解の難しい部分の説明が十分でなかった。
- ・特許制度は研究開発のロスをなくすために必要なことが分かり、特許制度の必要性が分かった。
- ・日本以外の特許も説明していたが、一番気になる国の特許は中国。どのようになっているのか知りたかった。
- ・以前受講したことがあったが、再確認できてよかった。
- ・海外で特許を取る場合どうするのが分かった。かなり高いのには驚いた。
- ・再現性のところが特に面白かった。
- ・特許制度は「発明を守るためのもの」くらいにしか考えていなかったが、「発明」にも明確な定義や審査があることに驚いた。
- ・授業が面白くて分かり易かった。ノットの必要性についてよく分かった。

- ・知財を概観する点ではわかりやすい（初学者には駆け足すぎるかもしれません）（教員）
- ・制度だけでなく、研究との関わりを説明する内容になっている点が良い。（教員）
- ・秘密情報管理と特許出願を対比して説明している点が、それぞれの位置づけを分かりやすくしていると思う。（教員）
- ・先生方の学生に伝えたいという熱意が強く感じられ、身が引き締まる思いがした。（教員）
- ・理工系の学生の知財に対する意識も年々高まっており、学生たちが熱心に講義を受けているもの感心した。（教員）

<2 時限> 先行技術調査、秘密管理、知財活用

- ・ 特許検索の実演があったのがよかった。(同意見 8 件)
- ・ 論文だけでなく特許や商標の検索方法も学べてよかった。(同意見 8 件)
- ・ 研究をするときに特許のあるツールを用いてはいけないなど、身近な具体例を提示してもらえてよかった。(同意見 4 件)
- ・ 研究ノートの取り方が具体的で有益であった。
- ・ スライド又は資料が見易かった。(同意見 3 件)
- ・ 秘密の守り方など、実用的で分かりやすかった。
- ・ 企業の情報管理はとても興味深く、情報管理の重要性が分かった。(同意見 3 件)
- ・ 特許出願と研究発表の関係が分かりやすかった。(同意見 2 件)
- ・ 他人の知財の利用と取り扱いのむずかしさがわかった。
- ・ 研究と知的財産のつながりという視点は、あまり聞いたことがないので興味深かった。
- ・ 知財の利用については、大学での研究が今は身近なので、それにまつわる例があって分かりやすい。
- ・ 著作物の例が身近で分かりやすかった。
- ・ 自分たちに起こり得ることだから興味を持った。(同意見 2 件)
- ・ 研究ノートの重要性を再確認できた。(同意見 2 件)
- ・ 具体例を説明してくれたので、分かりやすかった。(同意見 4 件)
- ・ 守秘義務について、管理トラブルの事例などを通じて、身近に感じることができた。(同意見 2 件)
- ・ 業界によって守秘義務に対するレベルが違うことに驚いた。
- ・ 就職活動の面接の事例が分かりやすかった。
- ・ 面接ディスカッションでは、法律や守秘義務が自分の身近にあることが分かった。
- ・ 特許調査の重要性が分かった。
- ・ 文献調査についても理解できた。
- ・ 情報管理は、非常に役立つと思う。
- ・ 最後の議論でどの班も同様の意見であったことから、知的財産には法律で決められた制度の他に、マナーのようなものが存在すると感じられた。
- ・ 知的財産の創立と保護は個人・団体としてはもちろん国家としても早急な課題だと考える。特に近年ではバイオサイエンスの分野でも ips 細胞の開発法を始めとする臨床・医療分野の国際特許競争が行われている。我々学生にとっても知財の勉強は関係があり、将来転職等で特許出願が行われた場合は、自分の研究が先行研究にあたるのか意識する必要がある。
- ・ 先行技術や研究を調べるのに役立てたいと思う。身近な講義テーマで面白かった。

- ・守秘契約について、自身が署名しなければ大丈夫なんだと安心した。現在自分が所属しているのが外部の企業なので、少し気になっていたのですが、これからは公にしていきたいと思う。
- ・研究における企業との提携は秘密管理が大切だということが分かった。就職活動でも注意していきたいと思う。
- ・共同研究しているラボの学生は、自分の研究を他人に話す時、話す範囲を考えていなかったことが悪かったと思う。
- ・秘密情報と特許出願を対比して説明している点が、それぞれの位置づけをわかりやすくしていると思う。(教員)
- ・研究ノートの内容は分かり易い。(教員)
- ・資料等分かり易くかつ正確に講義された。学生にとって最も面白い内容であろう。(教員)

<3 時限> 発明帰属、特定技術分野、共同受託研究

- ・特許権の存在意義についての話が面白かった。
- ・新聞資料に興味深かった。(同意見 3 件)
- ・企業出身の人で、話が具体的でイメージしやすく面白かった。(同意見 7 件)
- ・医療分野の自分にとっては、医療発明について勉強になった。
- ・医療発明において特許保護される範囲と保護されない範囲があることが分かってよかった。
- ・身近なトピックであり、共同研究にかかる契約についても当事者意識を持っているため、分かりやすい。研究室においてもよく聞く話。(同意見 6 件)
- ・青色発光ダイオードの事件の説明がわかりやすかった。
- ・標準化が分かった。
- ・職務発明と職務著作の違いが分かってよかった。(同意見 2 件)
- ・秘密管理の重要性が分かってよかった。
- ・医薬品や電気製品との知財の活用形態の違いが分かってよかった。
- ・知財の活用について、p10 の分類が分かりやすかった。
- ・網羅的で、様々な分野を広く浅く知れた。(同意見 3 件)
- ・発明者の権利を守る仕組みに興味深かった。
- ・議論ができたことがよかった。(同意見 3 件)
- ・発明者が一人のときにはお金の問題は簡単に考えられるけれど、もし複数になればより複雑になると思った。

- ・引用の境を学んだことで、今までの商業パロディー作品の良しあしが分かった。
(同意見 3 件)
- ・著作物とそうでないものの境界が分かってきた。
- ・発明が誰のものかという考えは大事。
- ・発明と著作物の違いを理解することができた。
- ・特許にかかわることは、モラルやマナー、経済、倫理という観点から共通の意識があると分かった。
- ・発明の課程と関与する人との関係で説明がされている。(教員)
- ・学生の意見発表やグループ討論を誘導するような講義資料があれば是非使いたい。
(教員)
- ・職務発明の利益配分について出席者に議論させた点。(教員)
- ・発明の過程と関わる人との関係が説明されているのがよい。(教員)

<4 時限> 知財制度、関連制度

- ・質疑応答が丁寧でよかった。(同意見 6 件)
- ・具体例がわかりやすかった。(同意見 3 件)
- ・意匠権など初めて知った。
- ・あまり知らない制度 (PL 法など) も含めて、知財制度について理解を深めることができた。(同意見 3 件)
- ・知的財産制度間の違いがわかりやすい資料であった。(同意見 2 件)
- ・偽物に関する取り締まりに知財が関わることが理解できた。
- ・議論ができたことがよかった。議論内容が面白い。(同意見 2 件)
- ・比較表が良かった。(教員)
- ・資料は見易かった。営業秘密については、6 つの種類の説明図があるとよい。(教員)
- ・著作権について議論させた点。(教員)

気になった点：

<全体>

- ・企業の新入社員向けであれば申し分ないが、大学生向けとして、講義を受けるだけの3年生までか、それとも卒業研究をする4年生以上なのか、講義対象がよく分からなかった。(教員)
- ・学生に何を教えるべきか、社会人になってから知ればよいこととの内容の精査が必要だと感じた。(教員)

<1時限>特許のあらまし

- ・手元資料は字が見えないものがあった。
- ・様々な法律名が出てきて、理解が追い付かないところがあった。
- ・特許の一生として9つの小章があるが、各スライド間のつながりが分かりにくかった。(同意見2件)
- ・具体的なイメージがしづらかった。
- ・図が多くて分かりやすいが、少し詰め込み過ぎである印象を受けた。
- ・進歩性の判断基準についてもう少し知りたかった。
- ・説明が丁寧過ぎて眠たかった又は退屈であった。(同意見4件)
- ・「身近にある知財」の説明が長い。
- ・①と②をわざわざ分ける意味が分からない。
- ・一般教養など授業で習ったことがあり、既知のことが多かった(同意見5件)
- ・日本が何故近年特許出願件数を落としているのかその理由がよく分からなかった。
- ・初めて聞いた専門用語や概念には面食らった。
- ・イントロに時間をかけすぎている印象。
- ・自然法則の範囲について説明が欲しかった。
- ・海外との比較についてもう少し詳しい説明が欲しかった。(同意見2件)
- ・企業の知財部や弁理士の立場からの内容を増やしてほしい。
- ・用語集があったほうがいい。
- ・導入は事例紹介だけでいいかと思う。
- ・実務はやはり漠然と感じてイメージがわからない。
- ・「発明は誰のものか」、どんな人がなれるかを詳しく説明してほしい。
(指示のみ、作業したのみなどの例をあげる)
- ・研究発表と特許出願との関連について、もう少し詳細な説明があってもよい。
- ・情報量が多すぎる。もう少し情報量を減らしてもよい。(同意見2件)
- ・専門用語が難しい。横文字、略語は説明が必要。(同意見2件)
- ・法律用語は固い。

- ・もっと実例を教えてほしかった。
- ・説明者が資料の流れや意図を理解していないのではないか。資料と説明者の乖離。
(同意見 3 件)
- ・知的財産とは特許のことなのか。
- ・特許の取り消しがあるのか気になった。
- ・PCTの説明が曖昧であった。
- ・法律・手続き面の内容の重複がみられる。(教員)
- ・一生として、生まれるところに重点がありすぎる。一生のどの部分に関する話題なのかを区別して説明できるとよい。(教員)
- ・どういう時に終わるのか、次につながっていくのかの説明があるとよりわかりやすい。(教員)
- ・理解度を把握する手段が必要。(教員)
- ・日本での位置づけは、時代、経済状況等によって変わってくる。業種別に細分化が必要か。(教員)
- ・日本の出願が少ないから何をいいたいのか考える必要がある。(教員)
- ・件数だけでの説明だが、特許庁の役割(ハイウェイ審査での日本の役割、ペーパーレスへの貢献など)もあとより具体的になるように思う。(教員)

<2 時限> 先行技術調査、秘密管理、知財活用

- ・講義のペースが早かった。(同意見 7 件)
- ・授業の進め方が一方的
- ・検索方法が難しかった。(同意見 2 件)
- ・後半部分が、ケースバイケースの場合があったりして難しかった。
- ・「試験又は研究のための実施」が少し複雑だった。(同意見 2 件)
- ・「発明の利用」の意味が分からなかった。
- ・「実施権」の意味が分からなかった。
- ・スクリーニングの意味が分からなかった。
- ・スライドに権利の説明が少なかったので分かりにくかった。
- ・iPad の検索はいらないと思う。
- ・2-3-1 の具体例に対して、それぞれどのような注意が必要なのか言ってほしかった。
- ・検索内容の情報量が多い気がする。もう少し時間をかけてほしい(同意見 2 件)
- ・検索は実際に使用してみたかった。(同意見 3 件)
- ・資料は講義用なのか、参照用なのか明確でないと感じた。講義用なら時間配分等をもっと調整すべき。参照用ならもっと細かい解説をすべき。
- ・資料と説明者の間に乖離がある。(同意見 2 件)

- ・スライドに見にくいところがあった。
- ・FI、IPなどの略語が分かりにくかった。
- ・技術調査では、PCを使う演習と組み合わせるのが効果的。(教員)
- ・調査内容については、少し専門的すぎる。(教員)
- ・活用態様は、後半で取り上げるにしても少し量が少ない。(教員)
- ・先行技術文献調査については、専門的すぎる(特にFタームなど)と思う。(教員)
商標、意匠は簡単な紹介でよい。(教員)
- ・実際にやるとなると、注意が必要(もっと、使うレベルでの記入)(教員)
- ・他人の知的財産の利用については、馴染みがないか。(教員)
- ・活用の態様で説明があるとより分かり易くなると思う。(教員)
- ・秘密上納の管理について、社会では非常に重要な問題だが、学生に対して講義すべきかは検討する必要があると思う。どこまで学生が自分のこととして考えられるかは疑問。(教員)

＜3時限＞発明帰属、特定技術分野、共同受託研究

- ・流れがつかめなくて難しかった。
- ・発明の帰属の判断の仕方が難しかった。
- ・スライド及び資料と説明者の間の乖離。(同意見2件)
- ・馴染みのないトピックで難しかった。(同意見2件)
- ・法律用語や専門用語が難しかった。(同意見3件)
- ・新聞をもっと活用してほしい。
- ・知財の活用は何がポイントかわかりにくかった。(同意見2件)
- ・「標準化」が難しかった。
- ・内容が多すぎる。(同意見3件)
- ・特許法がそもそも機械などの発明を前提としているため、特定技術分野があることの説明があったほうがよい。
- ・知財活用の事例がもう少し聞きたい。
- ・発明者の定義がちょっと分かりにくかった。
- ・基礎発明と利用発明の違いについての説明があったほうがよい。初学者には実施権など実施の定義がわからないかもしれません。
- ・活用の主体が誰なのかを明確にしてほしい。
- ・講義のスピードが少し早かった。(同意見3件)
- ・発明の帰属が結局はっきりしない印象を受けた。
- ・スライドを流している点が気になった。
- ・ディスカッションのメンバーは適宜入れ替えてほしい。そうでないと意見が偏る。
- ・もっと新しい社会問題を取り上げてほしい。

- ・発明について、米国ならどんな判決が出るのか気になる。(中村さんの話題より)
- ・医薬品の特許は難しい問題。特許はあっても独占権はないなどの決まりはないのかと思った。
- ・著作権の話で、「パロディー」を法的に取り締まることは、新しい芸術作品を生み出せなくなるという意見があったが、された側の不愉快さや気持ちは守られないのかと思った。
- ・中国・韓国などでのコピー商品は著作権や国際条約で取り締まれないのか、何故政府や企業は権利を履行しないのか気になる。黙殺されている気がする。
- ・ライフサイエンスと特許の話をもう少し聞きたかった。
- ・短い(時間不足)(教員)
- ・活用の説明が繰り返しになっている。(教員)
- ・特定技術分野と知財については、特許された事例を紹介するのが分かり易いと思う。(教員)

- ・特許を取った際に発生する利益の計算方法を詳しく知りたい。
- ・特許された事例紹介があったほうがよい。(同意見1件)(教員)

<4 時限>知財制度、関連制度

- ・境界がわかりにくい概念があった。
 - ・プレゼン資料に文字が多すぎる嫌いがあった。
 - ・内容が多すぎて、授業の進みがよくなかった。(同意見 6 件)
 - ・授業が早かった。(同意見 4 件)
 - ・各知財権に関する項目をサラッとやるのは難しいと思います。
 - ・興味を持った部分について自ら勉強したいので、参考文献を示してくれるとありがたかった。
 - ・学生にとって著作権が一番身近だと思うので、著作権だけ別にしっかり説明すべきだと思った。
 - ・特許と実用新案を比べる以外の比較の意図がわかりませんでした。
 - ・前後半で、内容が大きく違うので、罰則や規制などの項目としてまとめたほうがいい。
- (他 2 件)
- ・知財関連制度は、興味深いに関連制度として理解することが難しかった。
 - ・アニメやキャラクターなどの事例があってもよかったのでは。(他 1 件)
 - ・議論も大事だけど、スライドの説明もちゃんとしてほしい。(同意見 3 件)
 - ・講義のスピードが速すぎる。理解が追い付かない。
 - ・漫画の二次的著作物について疑問を持った。
 - ・著作権以外の話もしてほしかった。
 - ・標準化の対応が分かりにくかった。
 - ・ディスカッションはいろんな人の考えが聞けるので面白い。ただ、だらだら話す人がいるので、簡潔に纏めて頂きたい。
 - ・著作権の問題については、基準が分かりづらい気がした。
 - ・著作権に関する事例をもう少したくさん学びたい。
 - ・肖像権の話があったが、facebook などの SNS に他人の写真を挙げることは法的にはどうなるのか知りたい。
 - ・知的財産侵害物品の差止というのは、偽ブランド(コピー品)等を差止するということなのか。
 - ・営業秘密について、6 つの種類の説明図があるとよい。(教員)
 - ・安全保障管理は、知財制度とは異なるので別に説明すべき。他の項目としてあげればいいのか。(教員)
 - ・短い(時間不足)(教員)
 - ・具体例を追加して説明することにより、理解を促す必要がある。(教員)
 - ・輸出管理に関する項目、PL 法は知的財産との関連が少ないので、ほかの項目と置き換えた方がよい。(教員)
 - ・知財制度とは異なる制度(安全保障管理、PL 法)は別に説明すべき。(教員)
 - ・「その他の知財制度」について、スマホ、パソコンを例にすると、特に意匠制度の説明が難しくなると思われる。(教員)

<その他意見>

- ・PPTの配色の背景の濃色箇所が見にくく、また白黒印刷では見えない。
- ・ここまで特許に注意を払わなければいけないということを知らなかった。
- ・判例をスライドにとりあげてもいいのではないか。
- ・いつもは90分なので、少し長く感じてしまう。90分×5回してはどうか。(他5件)
- ・世界各国での特許の取り方の違いが知りたい。
- ・弁理士の主な活動と役割を知りたい。
- ・日本の特許出願件数が中国より少ないことに驚いた。
- ・特許を保有するにもお金がかかることに驚いた。
- ・集中講義が11月から始まるのは遅いと思う。9月や10月くらいの方がよい。
- ・経済大国日本の行く末に不安を感じた。
- ・ますます弁理士になりたくなった。
- ・面接で共同研究について話をする際には、事前の準備も十分しておいてから臨むべきなのではないか。
- ・初めは興味がなかったが、授業が面白かったので、これからの回も出席したい。
- ・知財分野への就職を少し考えているので現状を知りたい。
- ・講義の話し方が速すぎる、授業の進め方が一方的(第2回)
- ・講義資料について：
 - 事例に対して公報・図面等を添付すべきか。(教員)
 - 初学者向けには用語など難しい表現が含まれていると思う。(教員)
 - 法律、手続きの内容が重複している。(教員)
 - 先行技術文献調査については、専門的すぎる。(教員)
 - 審査基準からの定義は、文章表現のみとなるので見づらいし、理解しにくいと思う。(教員)
 - 個々のテーマについて、もう少し踏み込んだ資料でもよいと思う。(教員)
 - 重複して説明する箇所が出てくるので時間が不足する。(教員)
- ・講義資料に沿って授業を進めるのか、講義用資料をテキスト又は参照する資料として用いるのか明確ではないと感じた。講義用であれば時間配分の目安などが必要だと思う。資料用であれば、もう少し細かい点の解説が必要ではないかと思う。(教員)
- ・講義時間が120分は長すぎるので90分講義で回数を増やすのが良い。(教員)
- ・学生の意見発表やグループ討論を誘導するような講義資料があれば是非使いたい。(教員)
- ・理工系の人材には知財の創造という役割があるので、単に講義をする、教えるだけではなく、学生に考えさせる要素を入れていただきたいと強く感じた。(教員)
- ・今回は、パソコンを使った演習ができなかったが、演習を組み合わせるのが効果的だと思う。(教員)

3. 参考文献一覧

- ◆ 経済産業省 特許庁『産業財産権標準テキスト（総合編）』（独立行政法人 工業所有権情報・研修館、2012年）
- ◆ 特許庁『特許行政年次報告書 2012年版 グローバルな知的財産システムの実現に向けた競争と協調』（特許庁、2012年）
- ◆ 特許庁『特許行政年次報告書 2012年版 <統計・資料編>』（特許庁、2012年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『なるほど、日本の素敵な製品 デザイン戦略と知的財産権の事例集 - 2』（経済産業省 特許庁 総務部 企画調査課／審査業務部 意匠課、2012年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『がんばろう日本！ 知的財産権活用企業事例集 2011 知恵と知財でがんばる中小企業 50 の物語【第1版】』（経済産業省特許庁総務部企画調査課・普及支援課、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『現代の発明家から次世代へのリレーメッセージ』（経済産業省特許庁総務部総務課、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『「産業財産権標準テキスト（総合編）を活用した産業財産権学習のすすめ 産業財産権指導カリキュラムと指導マニュアル - 教師（指導者）用指導資料 - 』（行政独立法人 工業所有権情報・研修館、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『事業戦略と知的財産マネジメント』（独立行政法人 工業所有権情報・研修館、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『産業財産権標準テキスト（特許編）』（独立行政法人 工業所有権情報・研修館、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『地域団体商標 2011』（特許庁、2011年）
- ◆ 経済産業省 特許庁『特許ワークブック 書いてみよう特許明細書出してみよう特許出願 - 創造的研究成果を特許に - 』（独立行政法人 工業所有権情報・研修館、2011年）

- ◆ 石井正『知的財産の歴史と現代 経済・技術・特許の交差する領域へ歴史からのアプローチ』（社団法人発明協会、2005年）
- ◆ 泉通博『研究開発プロフェッショナルのための発明バイブル 第2版』（一般社団法人発明推進協会、2012年）
- ◆ 一般社団法人大学技術移転協議会『第9回 UNITT Annual Conference 2012』
- ◆ 加戸守行『著作権法逐条講義[5訂新版]』（著作権情報センター、2006年）
- ◆ 京本直樹『知的財産マネジメントの神髄 - 理論と実践 -』（神鋼リサーチ、2004年）
- ◆ 後藤憲秋、上村元雄『知的財産法概論 [第4版]』（名古屋知的財産法研究会、2012年）
- ◆ さとう秀徳『発明を生む基本書 - 技術者・研究者なら必ず身につけたい発明の要所 -』（一般社団法人 発明推進協会、2012年）
- ◆ 社団法人日本化学会『研究室マネジメント入門 - 人・資金・安全・知財・倫理 -』（丸善、2011年）
- ◆ 菅野政孝、大谷卓史、山本順一『未来へつなぐデジタルシリーズ 12 メディアと ICT の知的財産権』（共立出版、2012年）
- ◆ 杉光一成『理系のための法学入門 - 知的財産法を理解するために』（法学書院、改訂第7版、2011年）
- ◆ 高林龍『標準 特許法 [第4版]』（有斐閣、2012年）
- ◆ 段勲『特許戦争！ “知的財産立国” 日本の生きる道』（人間の科学社、2012年）
- ◆ 中尾直樹『仕事に生かす知的財産の知識 - 技術者の心得 -』（社団法人 電子情報通信学会、2009年）
- ◆ 中山信弘『特許法 [第二版]』（弘文堂、2012年）
- ◆ 中山信弘、大淵哲也、茶園成樹、田村善之編『商標・意匠・不正競争判例百選』（有斐閣、2007年）
- ◆ 中山信弘、大淵哲也、小泉直樹、田村善之編『著作権判例百選 [第4版]』（有斐閣、2009年）

- ◆ 中山信弘、大淵哲也、小泉直樹、田村善之編『特許判例百選 [第 4 版]』(有斐閣、2012 年)
- ◆ 中山信弘、小泉直樹『新・注解 特許法【上巻】』(青林書院、2011 年)
- ◆ 中山信弘、小泉直樹『新・注解 特許法【下巻】』(青林書院、2011 年)
- ◆ 中山信弘、小泉直樹『新・注解 特許法【別冊】 - 平成 23 年改正特許法解説』(青林書院、2012 年)
- ◆ 廣瀬隆之『企業人・大学人のための知的財産権入門 - 特許法を中心に - 』(東京化学同人、2005 年)
- ◆ 古谷栄男『理工系のための実践・特許法』(共立出版、2007 年)
- ◆ 増井和夫、田村善之『特許判例ガイド [第 4 版]』(有斐閣、2012 年)
- ◆ 森康晃『バイオ知財入門 - 技術の基礎から特許戦略まで - 』(三和書籍、2010 年)
- ◆ 山口大学『知的財産教育教本 (第 2 版)』(国立大学法人 山口大学、2010 年)
- ◆ 山口大学技術経営研究科 木村友久『現場感覚を反映した著作権対応 - リスクマネジメント感覚でグレーゾーンの海を渡る - 』(国立大学法人 山口大学、2010 年)

平成 24 年度大学知財研究推進事業
－理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方に関する研究－
委員会名簿

(敬称略、所属・役職等は平成 25 年 2 月現在)

委員長

伊藤 正実 群馬大学 共同研究イノベーションセンター教授

委員

久保 浩三 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究推進センター教授
佐伯 とも子 東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科教授
塩谷 克彦 東北大学 産学連携推進本部知的財産部長・特任教授
正城 敏博 大阪大学 産学連携本部知的財産部長・教授
村尾 治亮 東啓綜合法律事務所 (パートナー・弁護士)
渡辺 久士 豊橋技術科学大学 産学連携推進本部客員教授

オブザーバー

桂 正憲 特許庁 総務部 企画調査課 企画調査課長
河合 弘明 特許庁 総務部 企画調査課 知的財産活用企画調整官
木村 真己 特許庁 総務部 企画調査課 大学特許管理専門官
安藤 一道 特許庁 総務部 企画調査課 活用企画班長
菊地 拓哉 特許庁 総務部 企画調査課 活用企画係長

事務局

青江 秀史 大阪大学 知的財産センター長・教授
錦織 憲治 同 特任教授
尾崎 淳史 同 特任教授
青木 大也 同 特任講師
吉田 悦子 同 特任研究員
村上 画里 同 特任講師 (ヒアリング)
勝久 晴夫 同 特任助教 (ヒアリング)

○本研究の実施と報告書の作成にあたっては、本研究のために設置された上記委員から構成される委員会の助言を活用した。

平成24年度特許庁大学知財研究推進事業

理工系学生向けの知的財産権制度講座の在り方
に関する研究報告書

発行 平成25年2月

国立大学法人 大阪大学知的財産センター

住所：大阪府豊中市待兼山町1-6

電話：06-6850-5007